

古今和漢

和漢茶入

万葉集全書

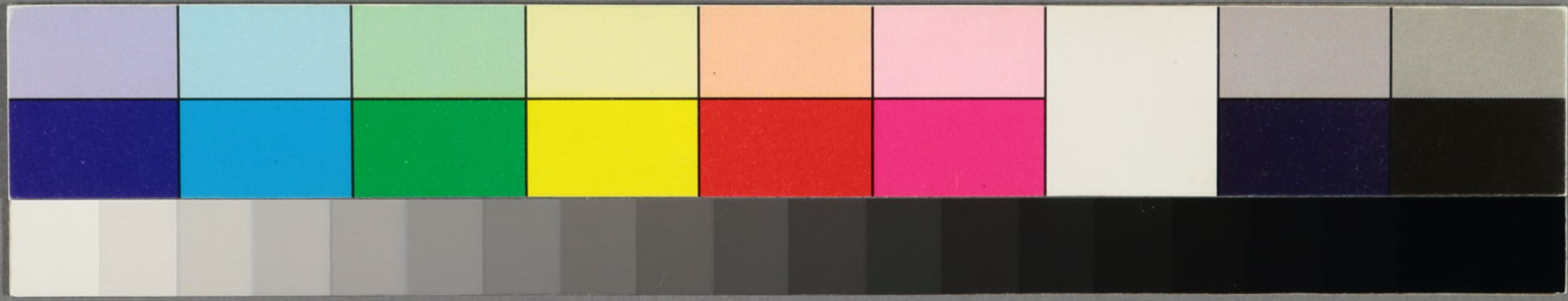
六

月録  
故亦名茶之正名  
九四七品  
康戶物産物法  
有物自立元子  
五茶  
座子九卒三粒

上







和漢名物茶入肩衝

上卷

茶入肩衝



六卷

和漢名物茶入肩衝目錄

- 一 瀬門 瀬戸 瀬戸 瀬戸
- 二 右瀬戸
- 三 辰之市
- 四 肩衝
- 五 小肩衝
- 六 飛鳥川
- 七 先祖茶
- 八 夏山茶
- 九 花散茶
- 十 糸月茶
- 十一 虫吟茶
- 十二 姉茶
- 十三 紫菜茶
- 十四 真中茶
- 十五 後茶
- 十六 好月茶
- 十七 雲下茶
- 十八 鏡茶
- 十九 金糸茶
- 二十 却合茶





四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	卅九	卅七	卅五	卅三	卅一	卅九	卅七	卅五	卅三	卅一	卅一
薩摩焼	小川子	織部焼	利休焼	徳川子	吉良焼	肉黄茶子	廣沢子	西急子	茶底子	常陸子	肉海	鶯頭	朋高	樽茶入	湯桶		
又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨
尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子

卅七	卅五	卅三	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一	卅一
文嘉	後赤目子	志山子	野田子	万石焼	天目子	坊主子	天目子	万石焼	天目子	坊主子	天目子	万石焼	天目子	坊主子	天目子	万石焼	天目子
又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨	又時雨
尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子	尺棧子

和漢茶入目録  
上二



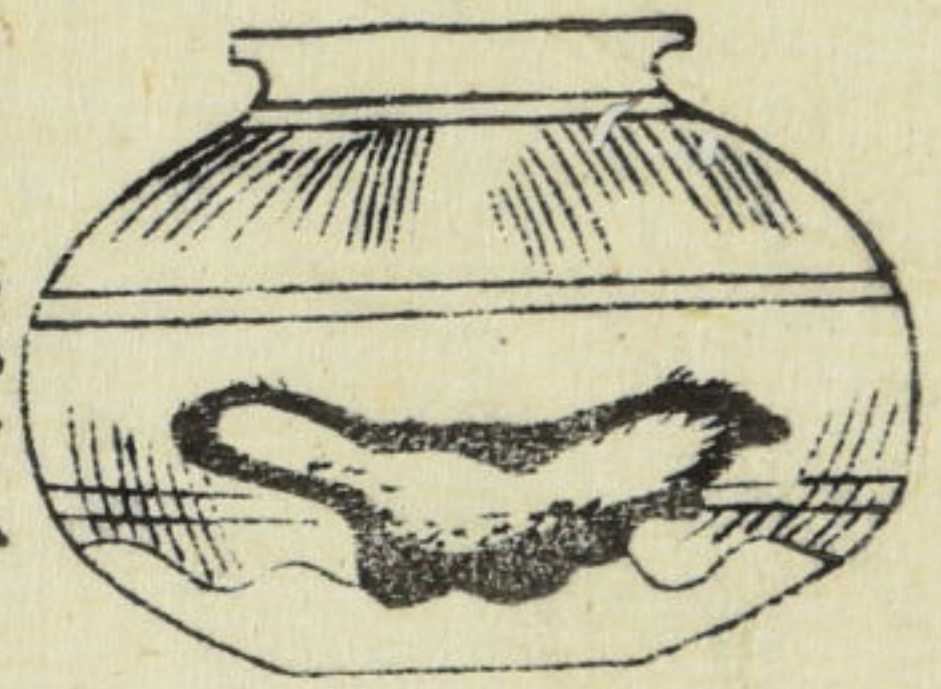








博多茄子 ハカタ 似り



腹七分

口寸  
 豎 壹寸九分  
 横 貳寸三分  
 大 白  
 茶 濃粉  
 亦 魚合  
 朱 龍丹  
 廻リ 七寸五分  
 底 五寸  
 糸切

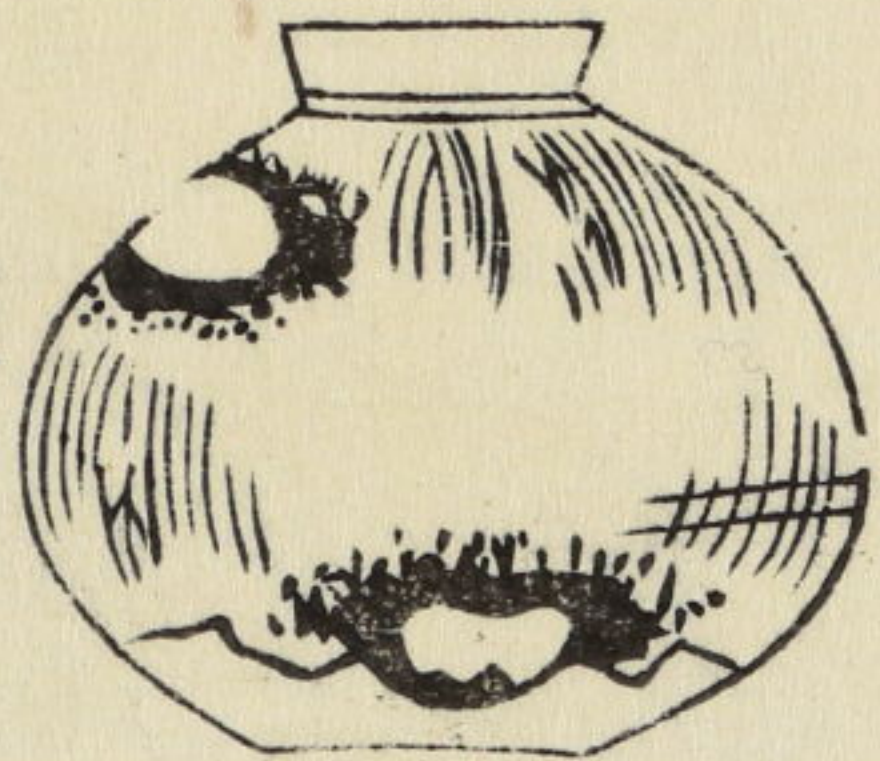
秀吉茄子 エシヤ 久秀所拵



腹八分半

口寸  
 豎 一寸九分半  
 横 貳寸二分  
 シヨツ 丑サキニアリ  
 廻リ 七寸五分  
 底 五寸五分  
 糸切  
 大 喜ソ白ケテ

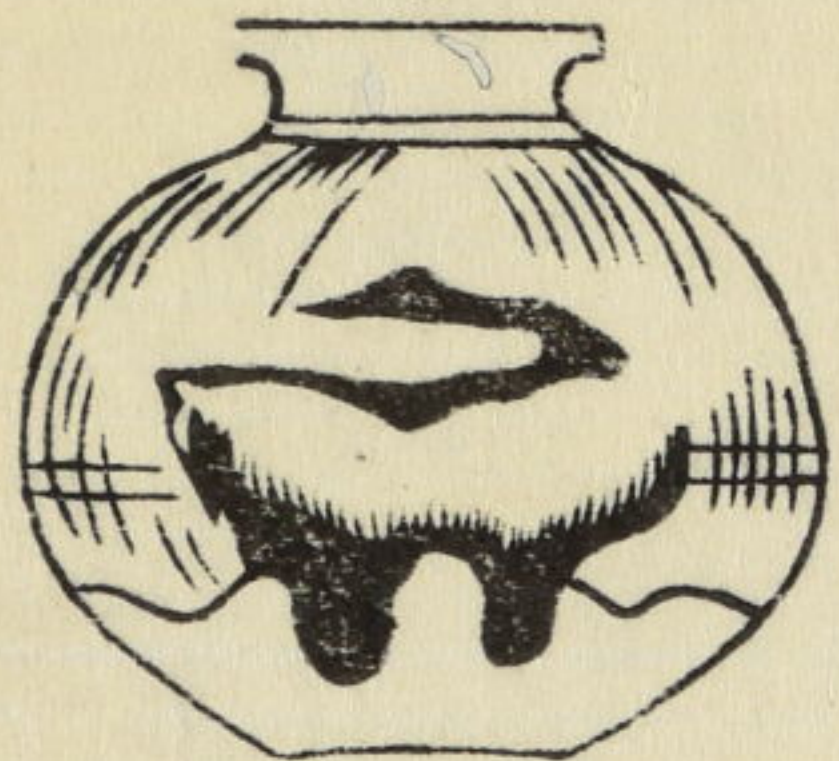
松竹茄子 マツトケ 信長公御拵



腹六分

口寸  
 豎 貳寸  
 横 貳寸五分  
 大 層紅梅  
 廻リ 六寸九分  
 底 九分  
 糸切

出雲茄子 イツモ 公方拵 長三坂門徳



腹八分半

口寸  
 豎 貳寸強  
 横 貳寸三分  
 大 赤ク白メ  
 糸切  
 裏 王ケカタアリ  
 又 黄菊  
 廻リ 七寸一分  
 底 五寸







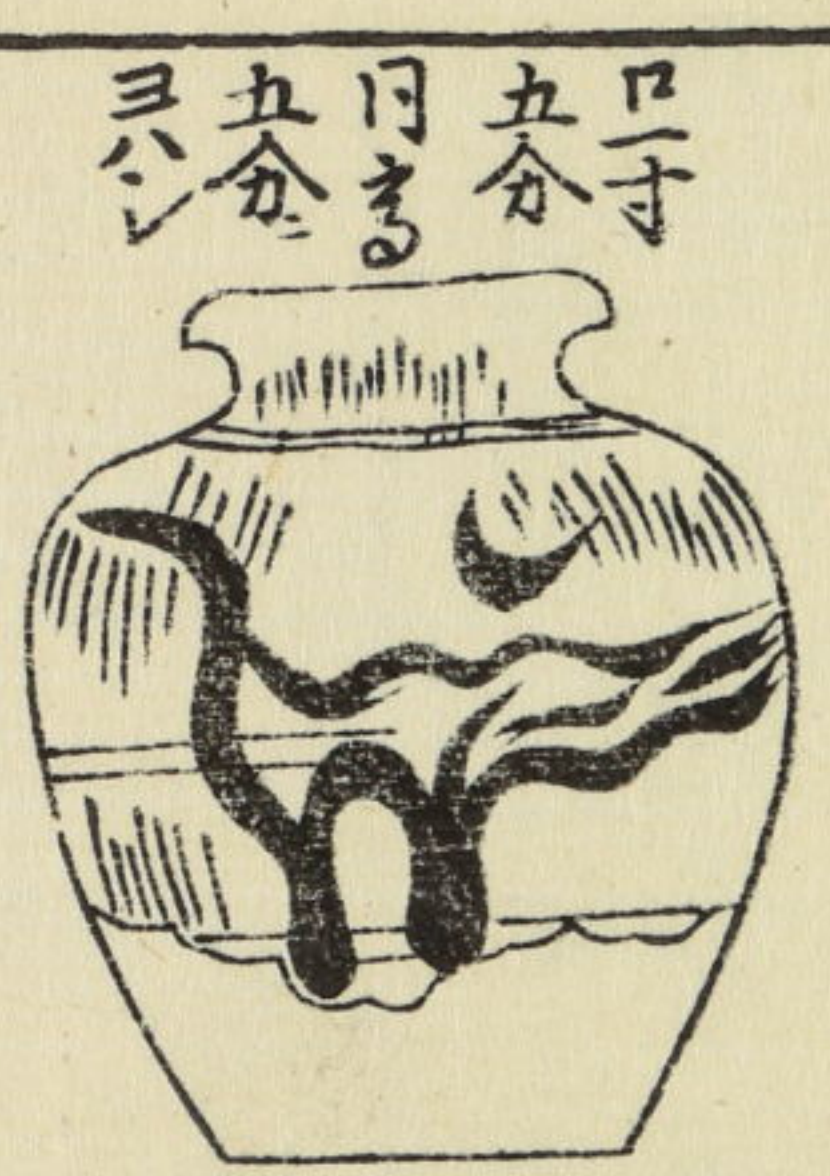
一 國子 伴勢



臘七分

口九分  
半  
堅一寸九分  
横二寸五分半強  
土層赤入り  
廻り七寸三強  
底一寸  
糸切

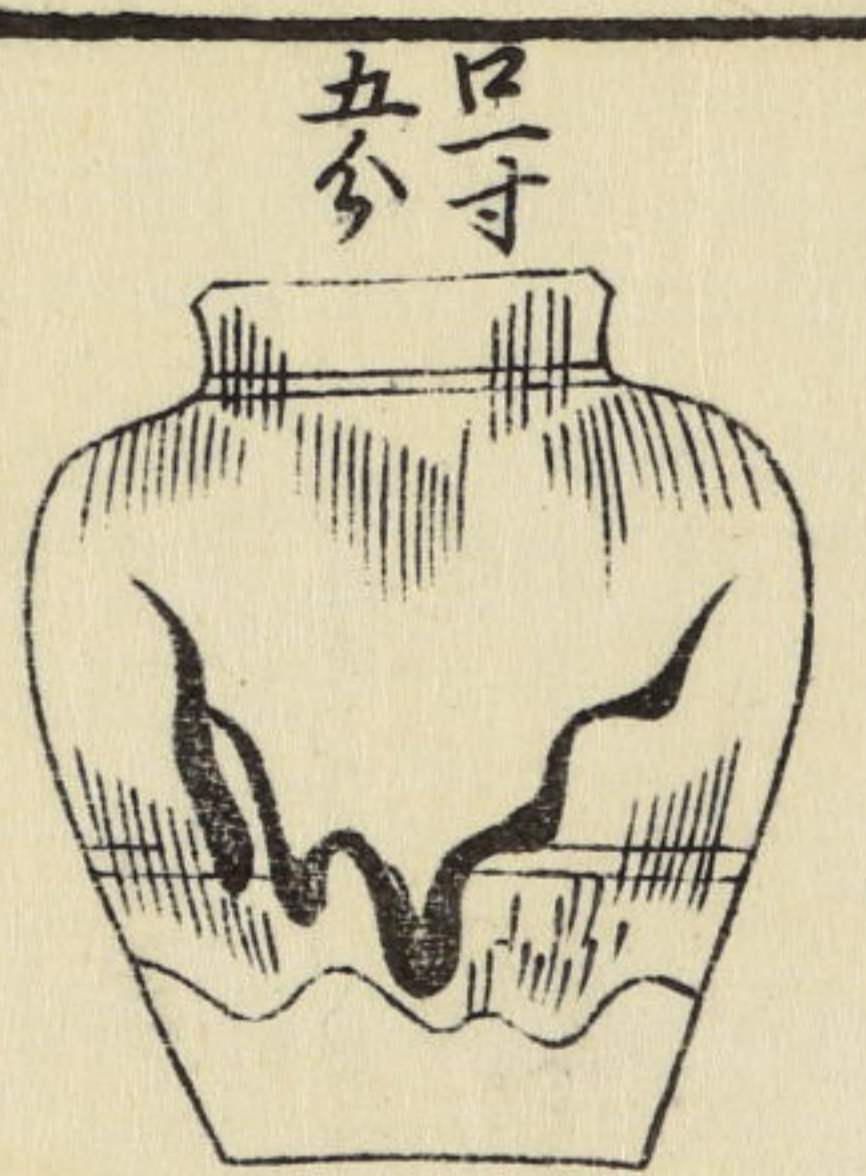
一 仁田 新田共之 大友不持



臘一寸三分

口一寸  
五分  
日寸  
五分  
三寸  
堅二寸八分  
横二寸五分強  
廻り八寸一分  
底一寸五分  
糸切

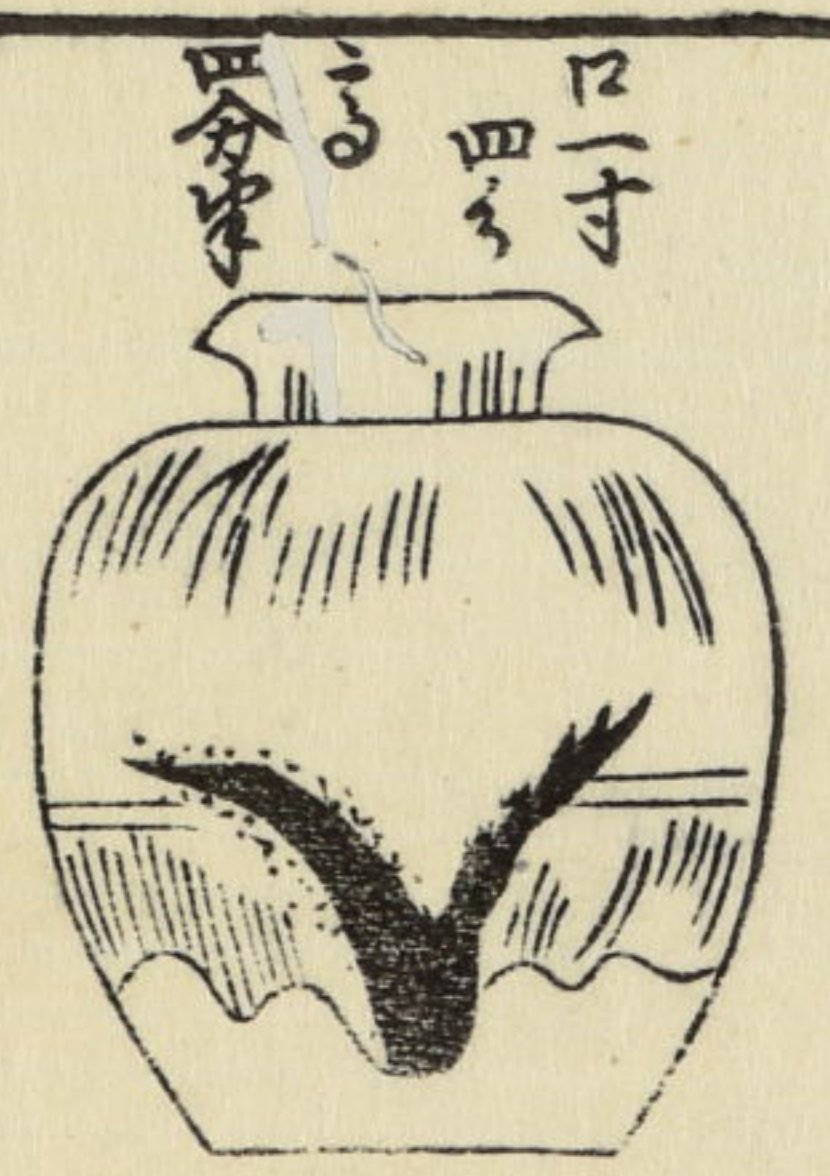
一 初花 信長只涉不持



臘一寸三分

口一寸  
五分  
堅二寸八分  
横二寸五分半  
廻り八寸二分  
底一寸五分半  
糸切

一 好文 久秀不持

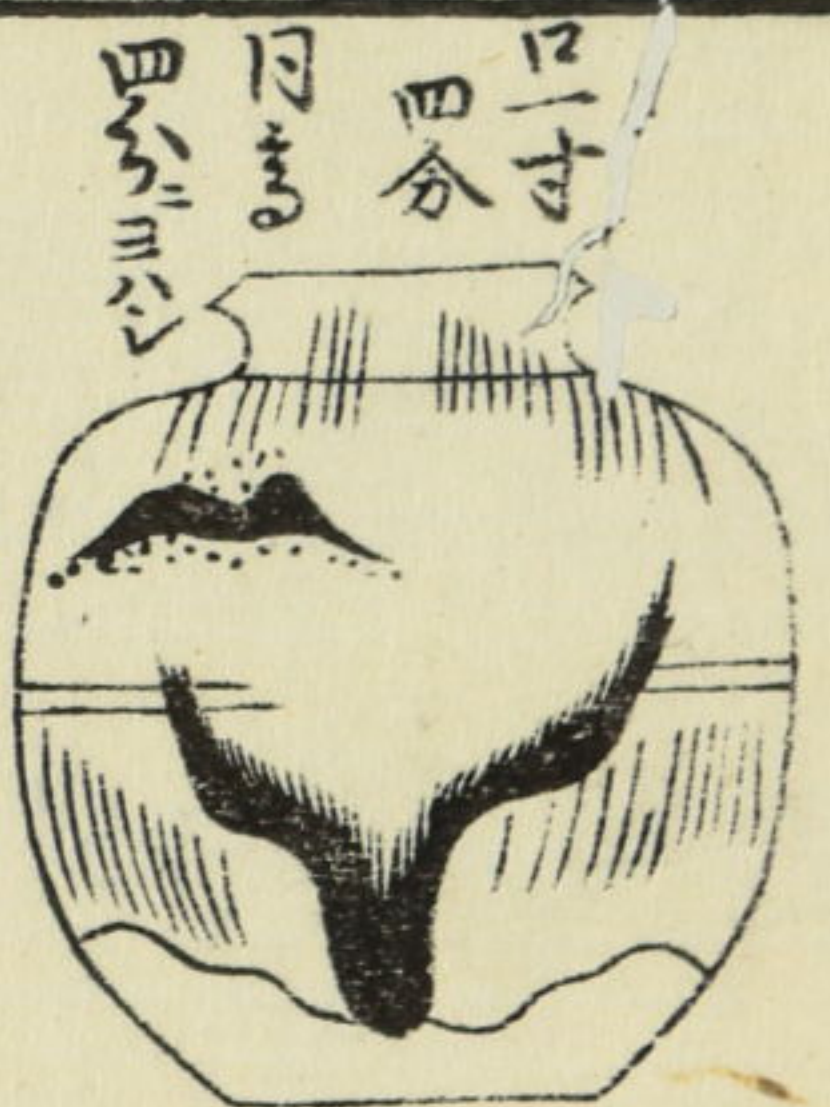


臘一寸三分

口一寸  
四分  
堅二寸九分  
横二寸四分  
茶漬物為柄  
糸切也  
大  
廻り七寸七分  
底一寸三分半



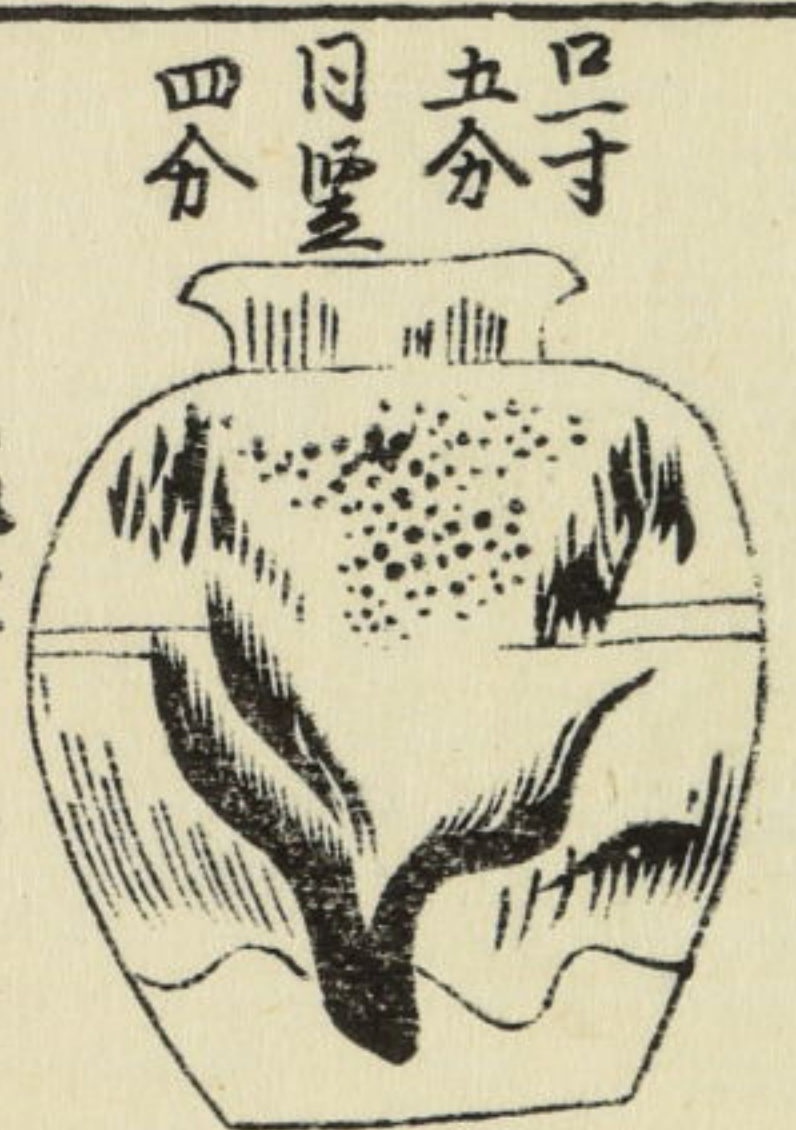
一 奈良茶 傳多々 一 心茶



口寸 四寸  
目寸 四寸  
四寸三分  
堅二寸九分  
横二寸四分  
肩二寸五分  
廻二寸  
底一寸五分

脚一寸五分

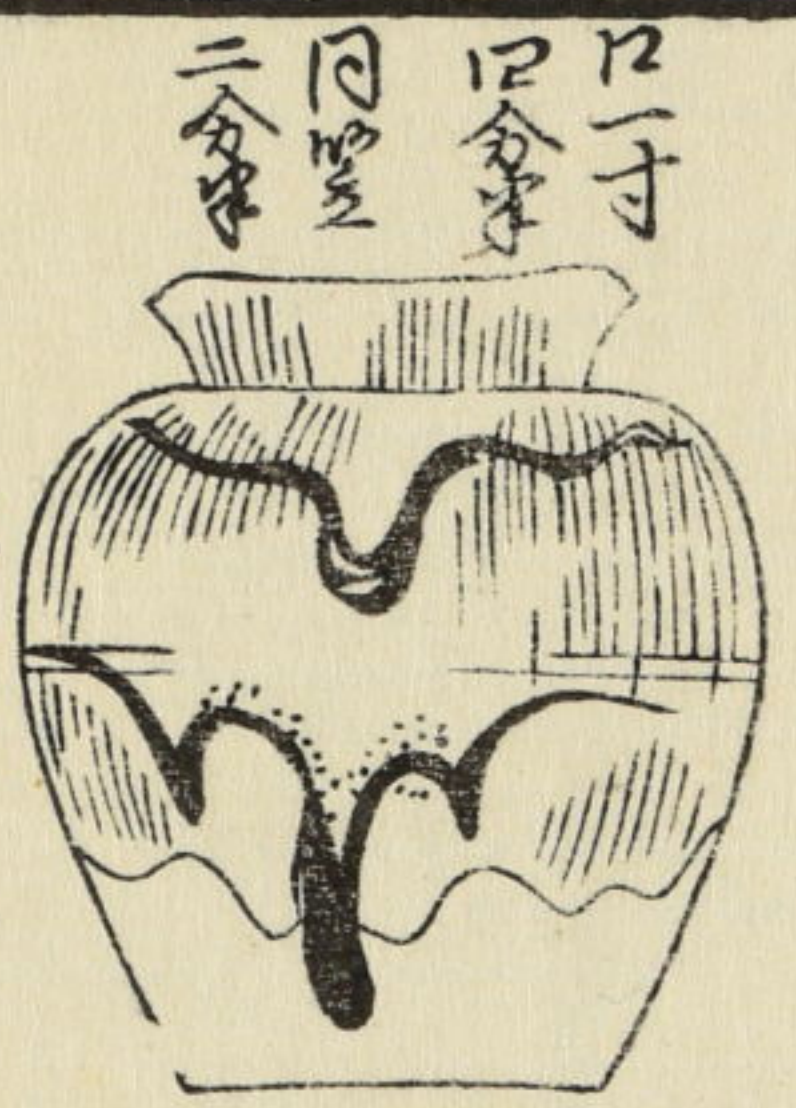
一 則祐 大坂有



口寸 五寸  
目寸 四寸  
四寸  
堅二寸八分半  
横二寸五分  
肩二寸五分  
地鵝茶  
廻八寸  
底一寸五分

脚一寸五分

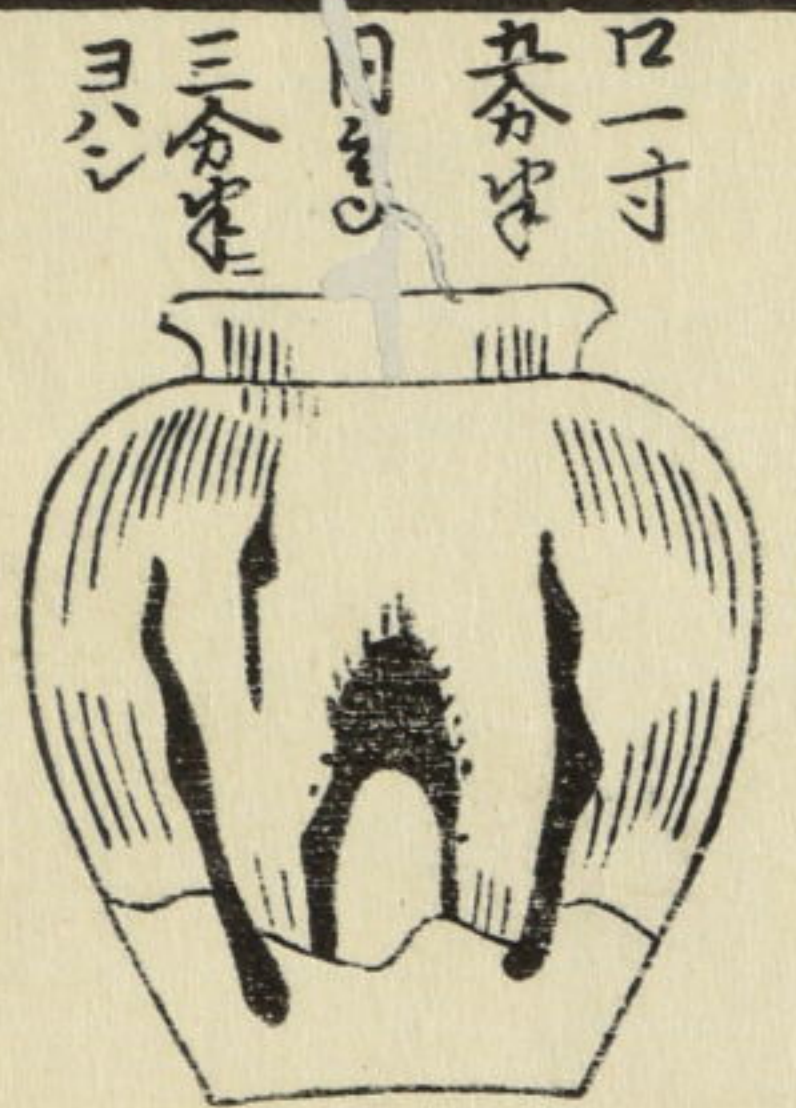
一 勢多 任吉屋 宗無茶



口寸 四寸  
目寸 三寸五分  
二寸五分  
堅二寸九分  
横二寸三分  
廻二寸四分  
底一寸五分

脚一寸五分

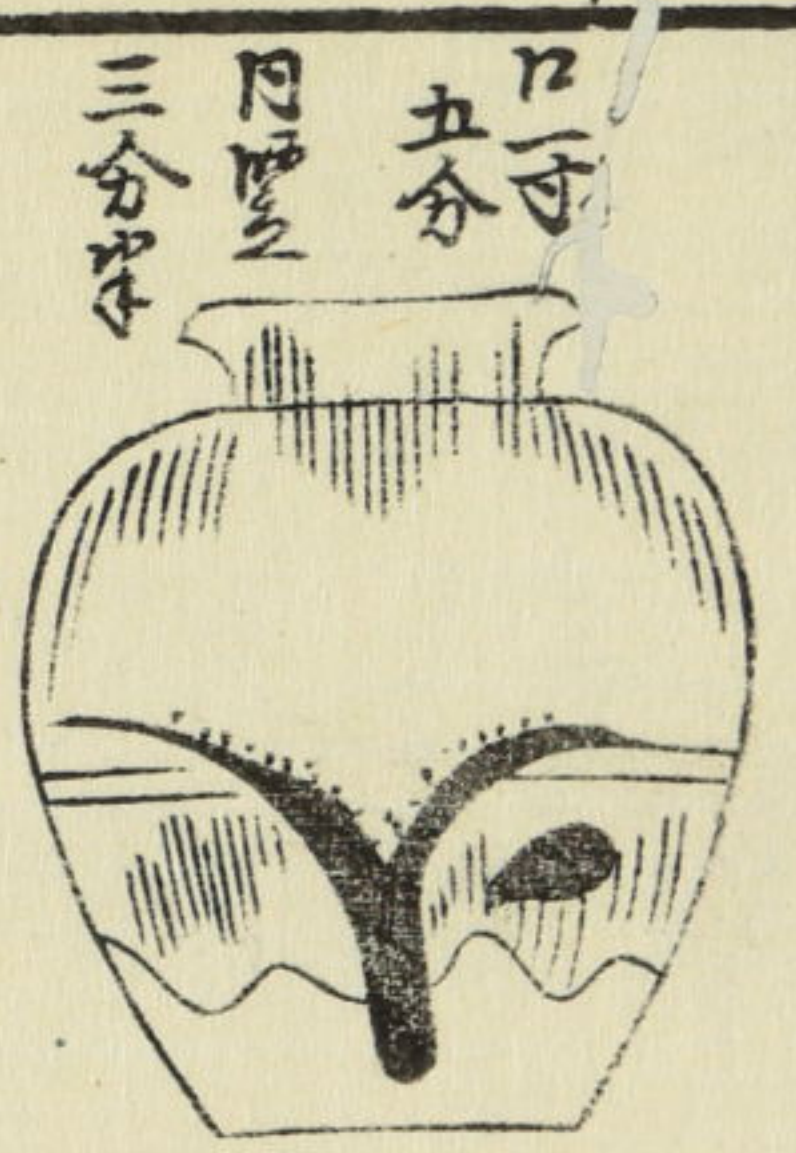
一 小野 内茶



口寸 三寸五分  
目寸 三寸  
三寸五分  
堅二寸八分半  
横二寸四分  
茶内流  
熱茶  
廻七寸八分

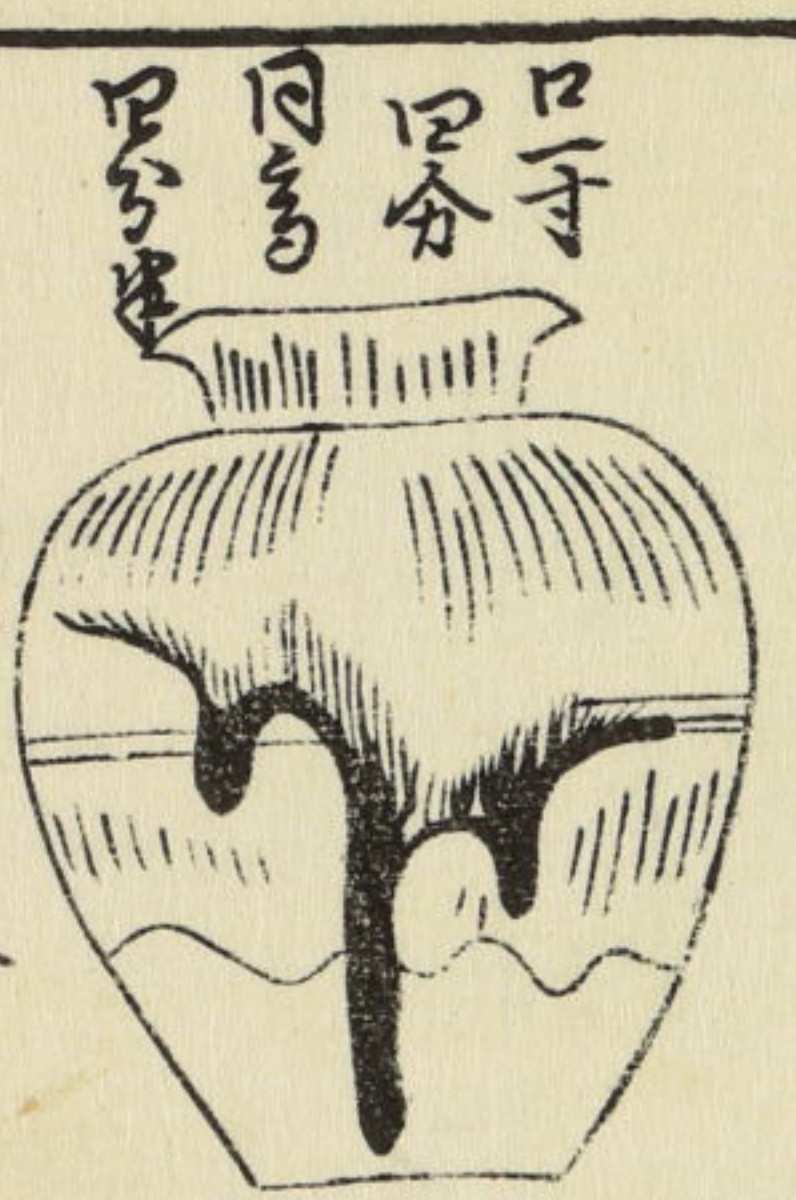


一久我 コガ  
宗況不持 カセ



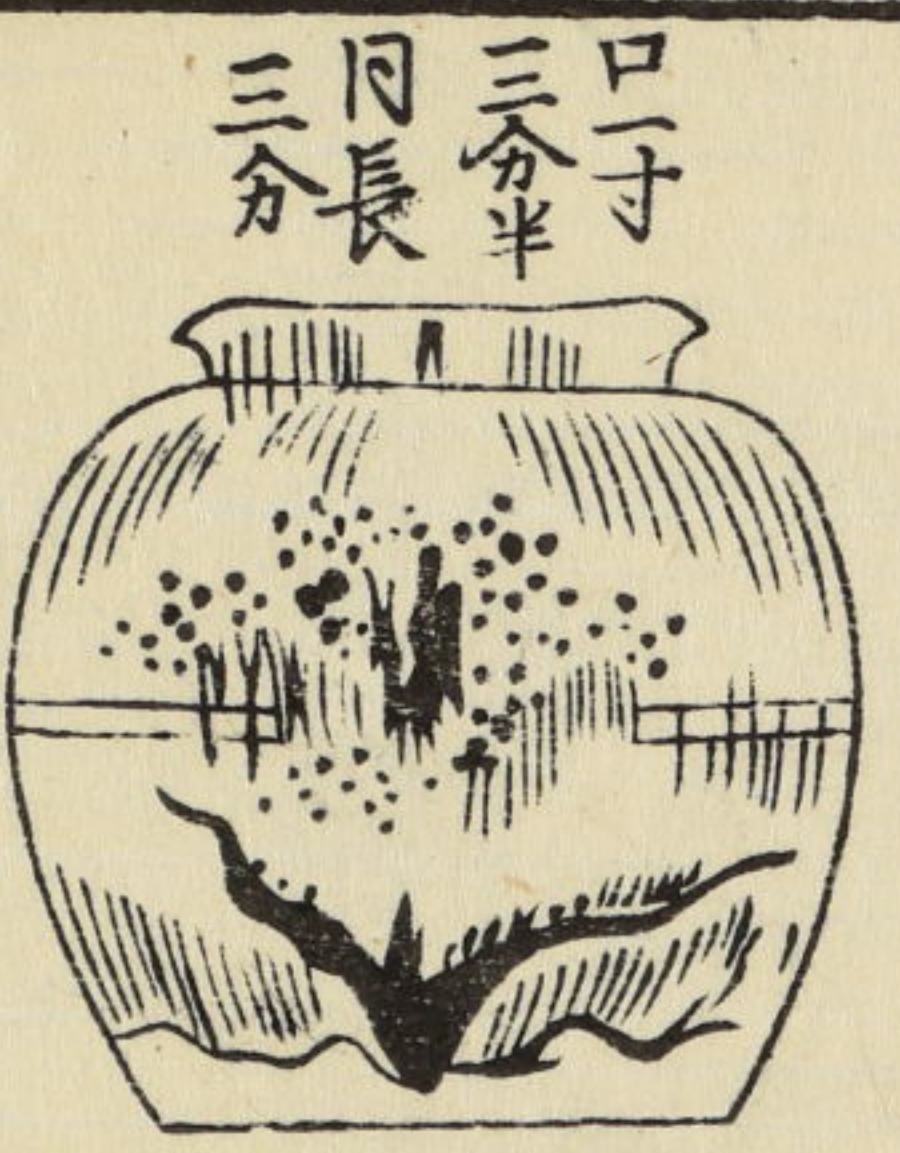
口二寸五分  
五寸  
月壁  
三分半  
胎二寸五分  
底一寸五分  
堅二寸八分半  
横二寸四分  
下茶海持  
上茶海月茶海  
又 地錫  
去 為茶海  
二寸七分  
廻リ七寸七分  
底一寸五分

一投頭巾 ナケツキン  
万屋下持



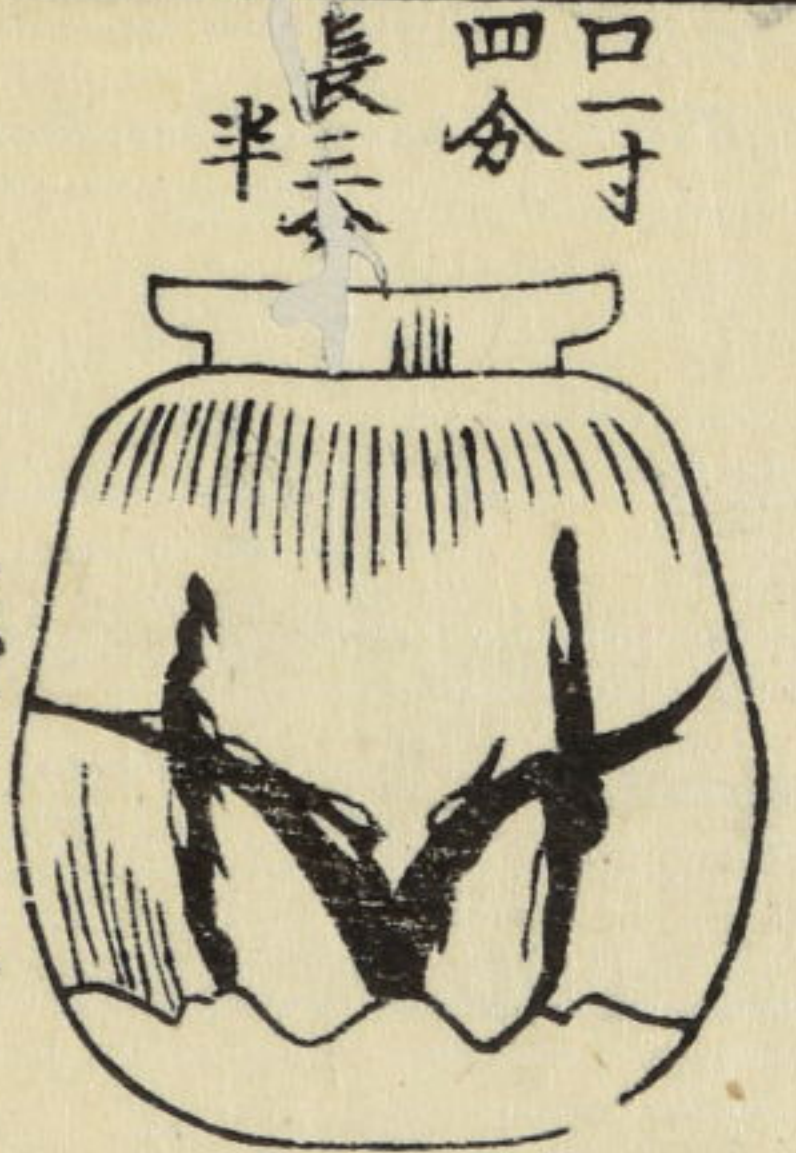
口二寸  
四分  
同高  
四分半  
胎一寸一分  
底一寸五分  
堅二寸九分半  
横二寸五分  
茶海持  
面 萌茶海  
赤茶海  
今四寸  
廻リ七寸四分  
底一寸五分

一北野 キタノ  
宗達取持 ウツ



口二寸  
三分半  
同長  
三分  
胎一寸五分  
底一寸四分  
堅二寸九分半  
横二寸四分  
茶海持  
又 赤茶海  
去 アラヌク  
廻リ七寸八分  
底一寸四分

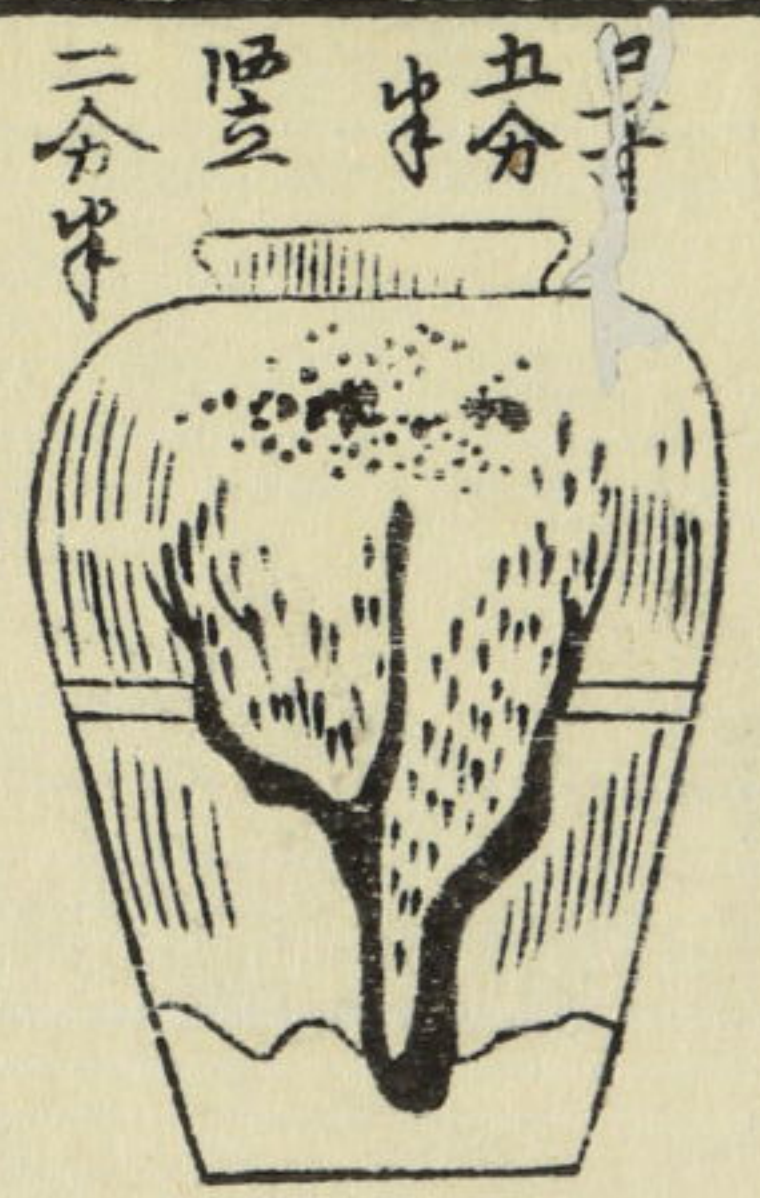
一仁保 ニホ  
道叱 京天王寺屋



口二寸  
四分  
長三分半  
胎一寸一分  
底一寸五分  
堅二寸九分半  
横二寸四分  
茶海持  
茶海掛合  
抱茶一色  
地錫  
廻リ八寸三分  
底一寸五分

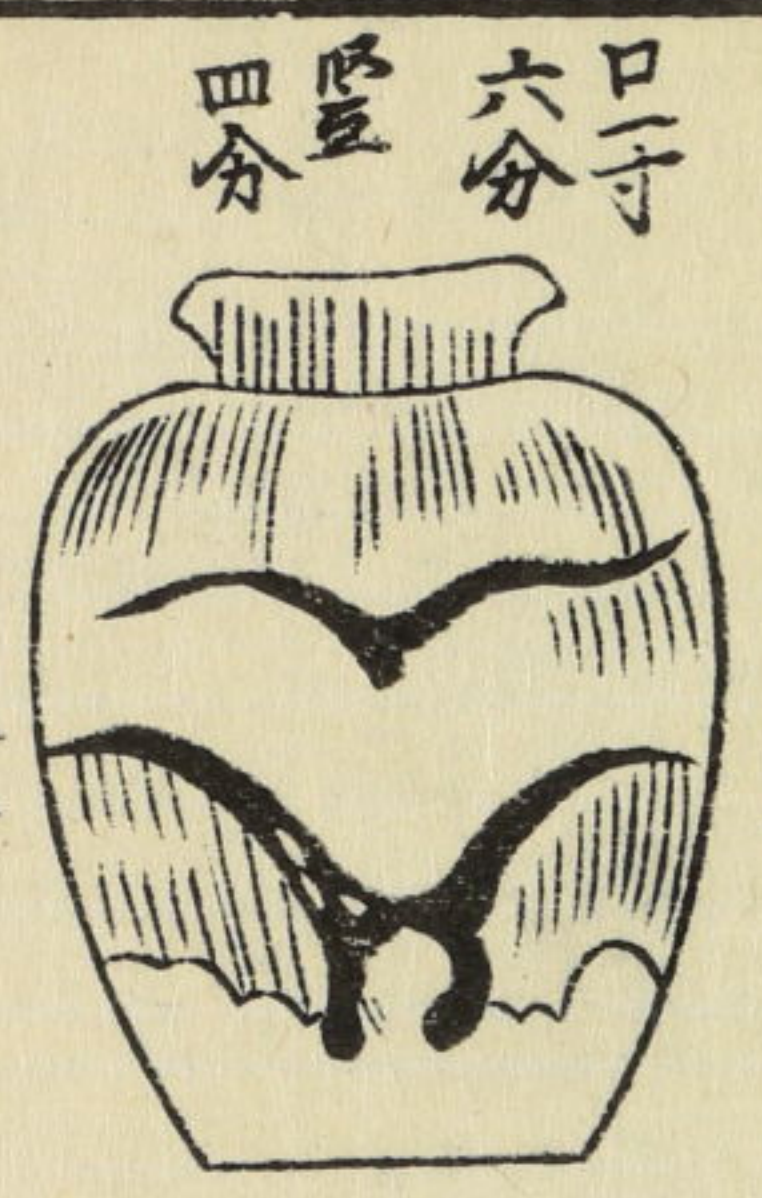


一針屋 今茶院所持



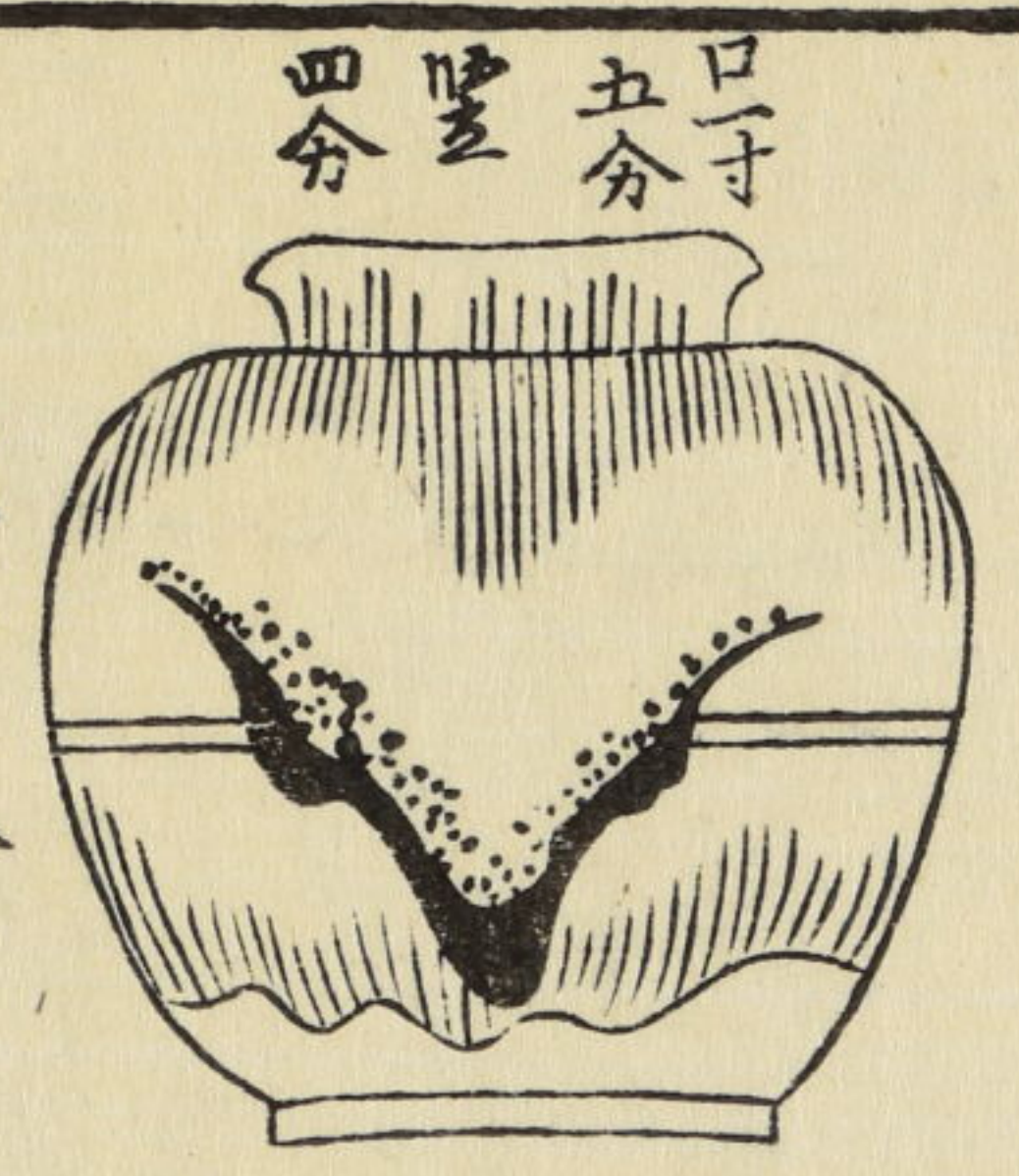
口寸 五寸半  
 堅 五寸  
 横 三寸七分半  
 底 二寸五分  
 土 青白ケタリ  
 茶濃揚  
 薄揚毛有  
 廻 八寸  
 底 一寸五分

一四聖坊 奈良



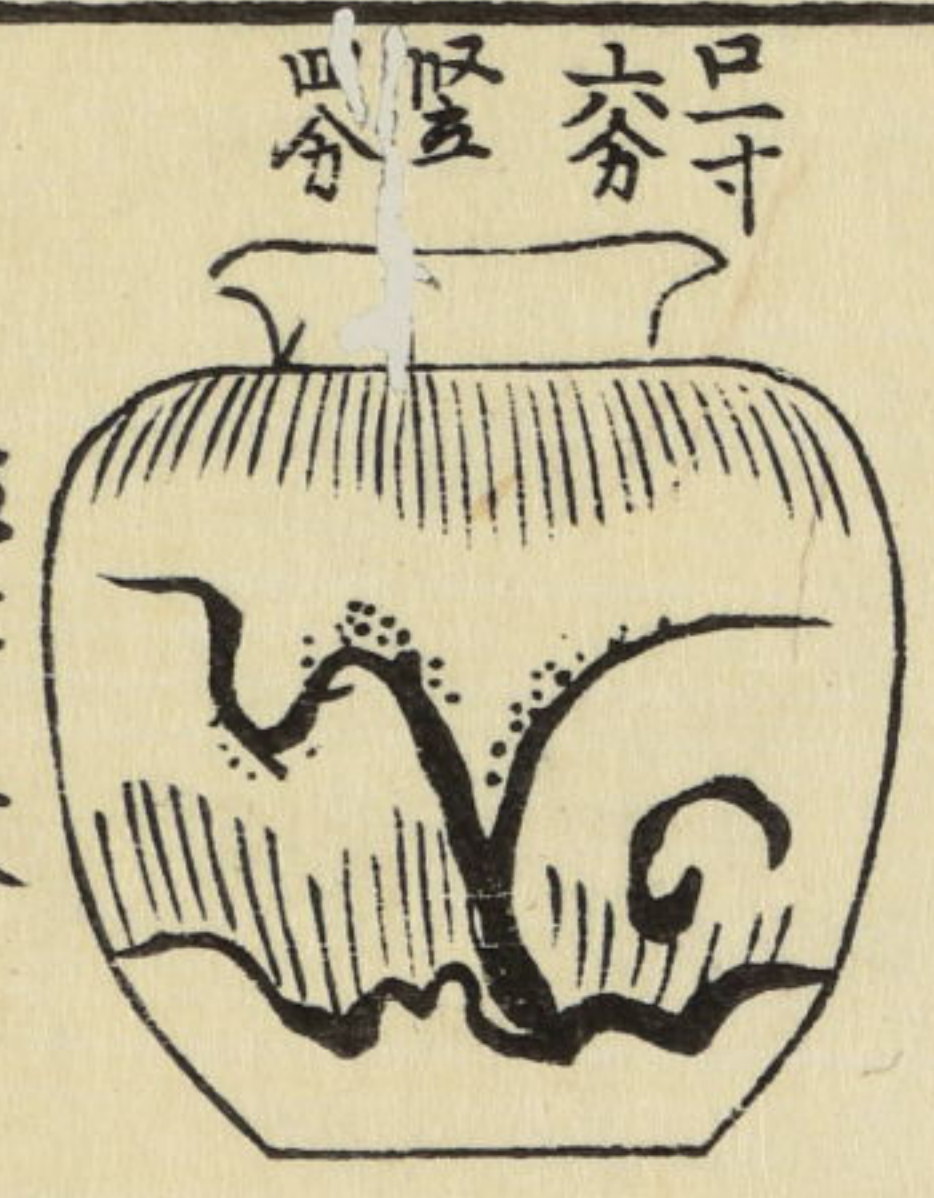
口寸 六分  
 堅 四分  
 横 二寸八分強  
 底 二寸七分強  
 惣茶 コイナメ  
 下茶 薄揚  
 上茶 女青  
 土 薄紫  
 上 ヨコアト  
 廻 八寸五分半  
 底 一寸六分

一圓座 招鳩



口寸 五寸  
 堅 四分  
 横 二寸七分  
 底 二寸五分  
 茶 梨目揚  
 上茶 膏茶色  
 土 赤ニ子土  
 一極  
 廻 八寸一分  
 底 一寸五分

一種林 又美須と云 作之間甚九所所持



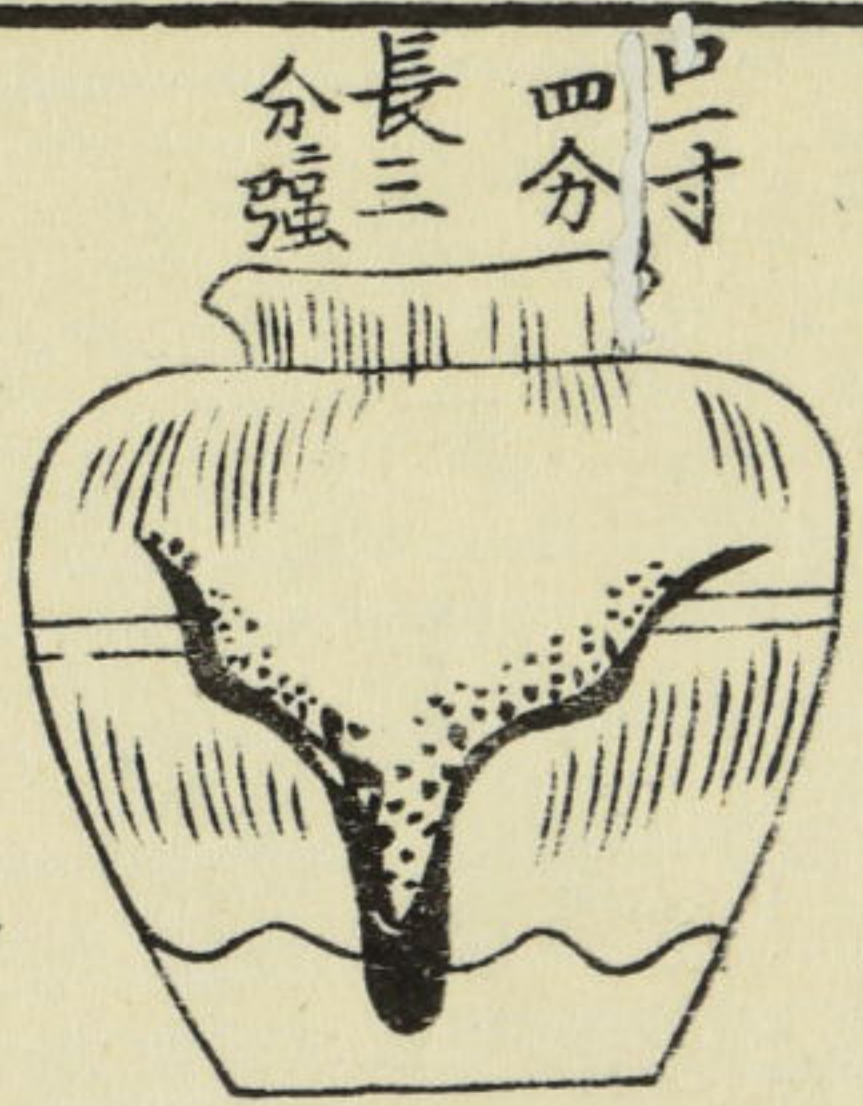
口寸 六分  
 堅 四分  
 横 二寸七分  
 底 二寸八分  
 土 濃揚  
 午形アトニ薄揚  
 上茶 馳廻アラン  
 土 黒ニ赤ク  
 廻 八寸六分  
 底 一寸七分







一式部少輔

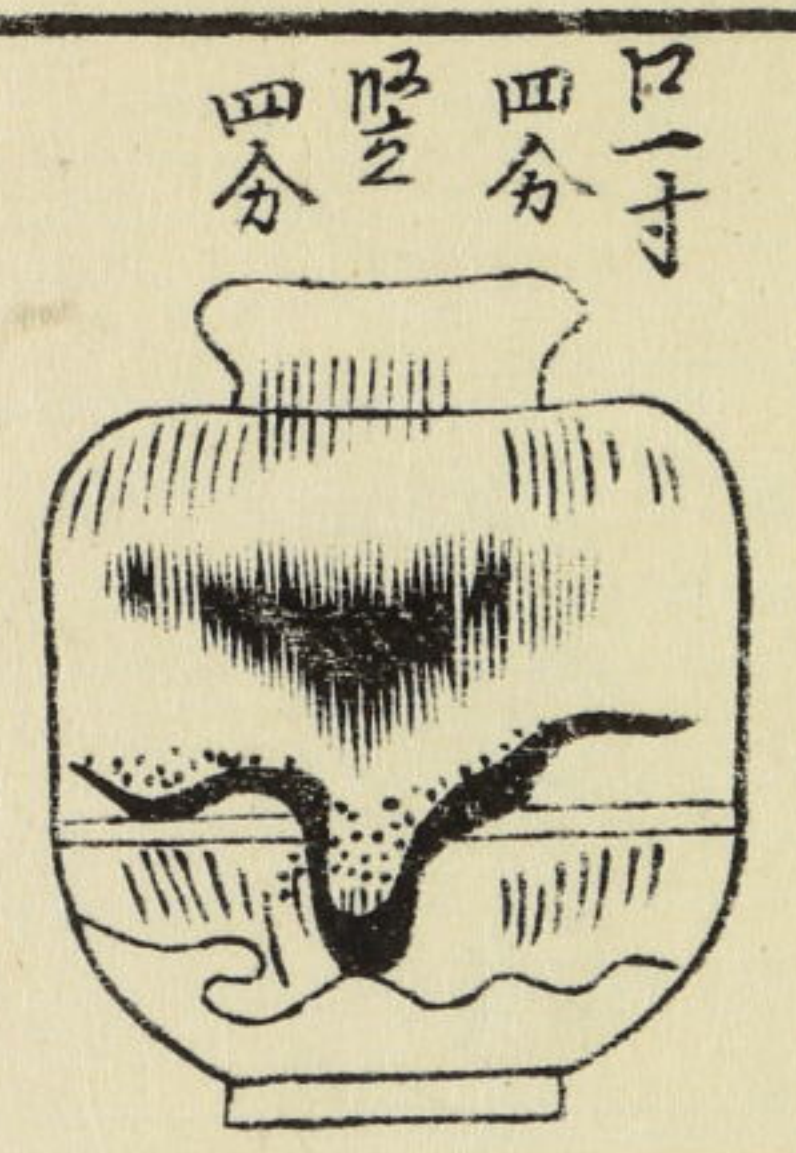


腹一寸四分

口一寸四分  
長三分強  
堅二寸九分  
横二寸五分半  
茶一色ナリ  
流コイナク  
黒メナリ  
廻リ八寸一分  
底一寸五分

一圓座

譽 祐長取持

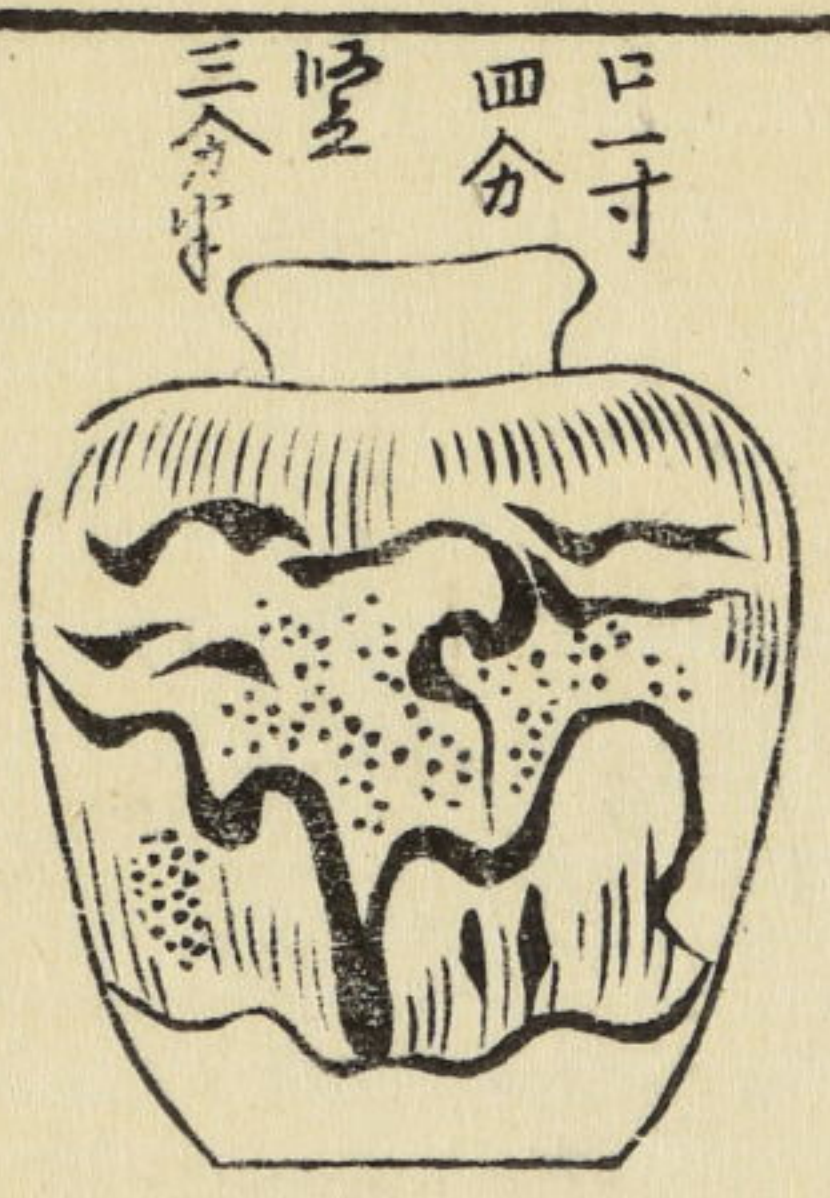


腹八分

口一寸四分  
堅四分  
横二寸五分強  
惣茶濃粉  
地茶濃粉  
云 喜メナク  
廻リ七寸九分  
底一寸四分  
者座一分

一宮王肩衝

美内法作



腹一寸五分

口一寸四分  
堅四分  
横二寸八分  
横二寸四分強  
茶濃粉  
下茶濃粉  
云 喜メナク  
廻リ七寸六分  
底一寸四分

一玉堂

宗和取持



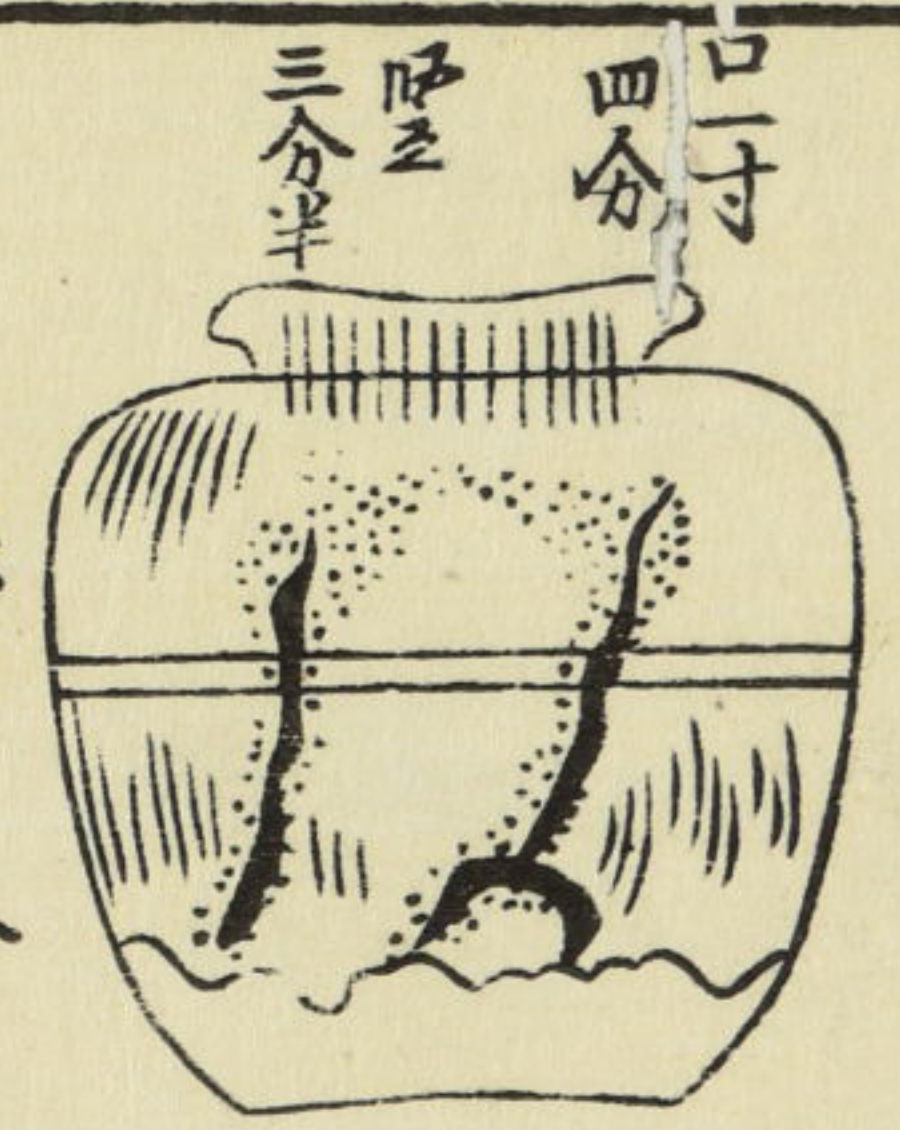
腹一寸六分

口一寸四分  
堅四分  
横二寸九分  
横二寸六分  
茶一色ナリ  
廻リ八寸二分  
底一寸七分



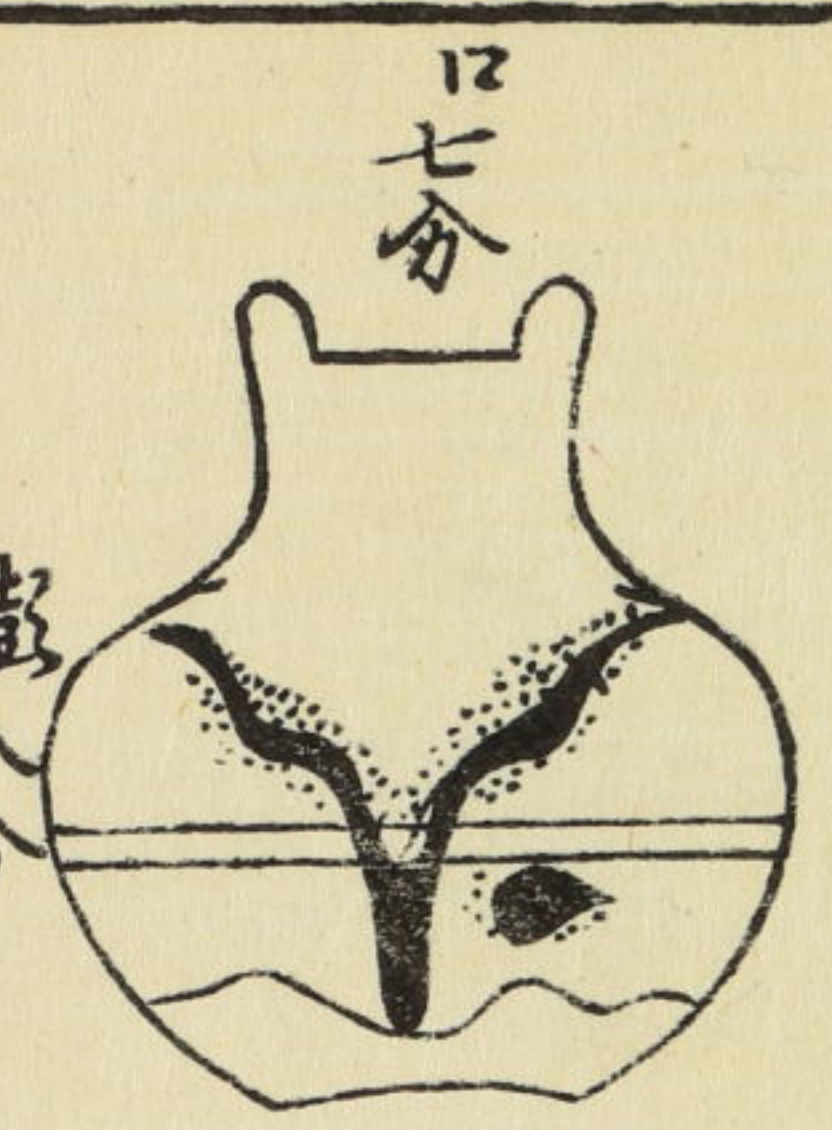
古物類考  
第九

一 嵐ワザレ 肩衝



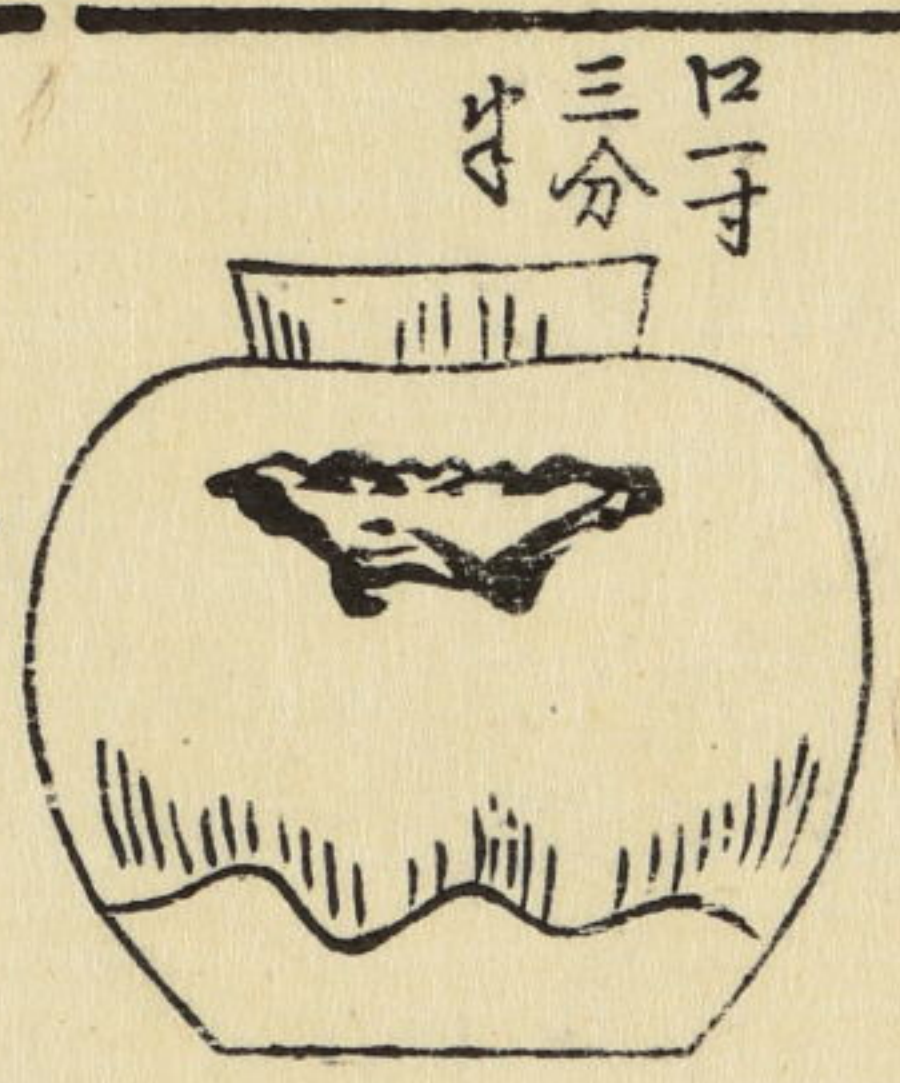
口二寸  
四分  
壁三分半  
横二寸八分  
深二寸五分強  
茶箱の栴  
目五葉  
ハツリ  
云 赤黒メナリ  
紫心アリ  
莖同五ツ  
廻リ七寸九分  
底一寸五分

一 瓢箪ヒヤウタン 白杵



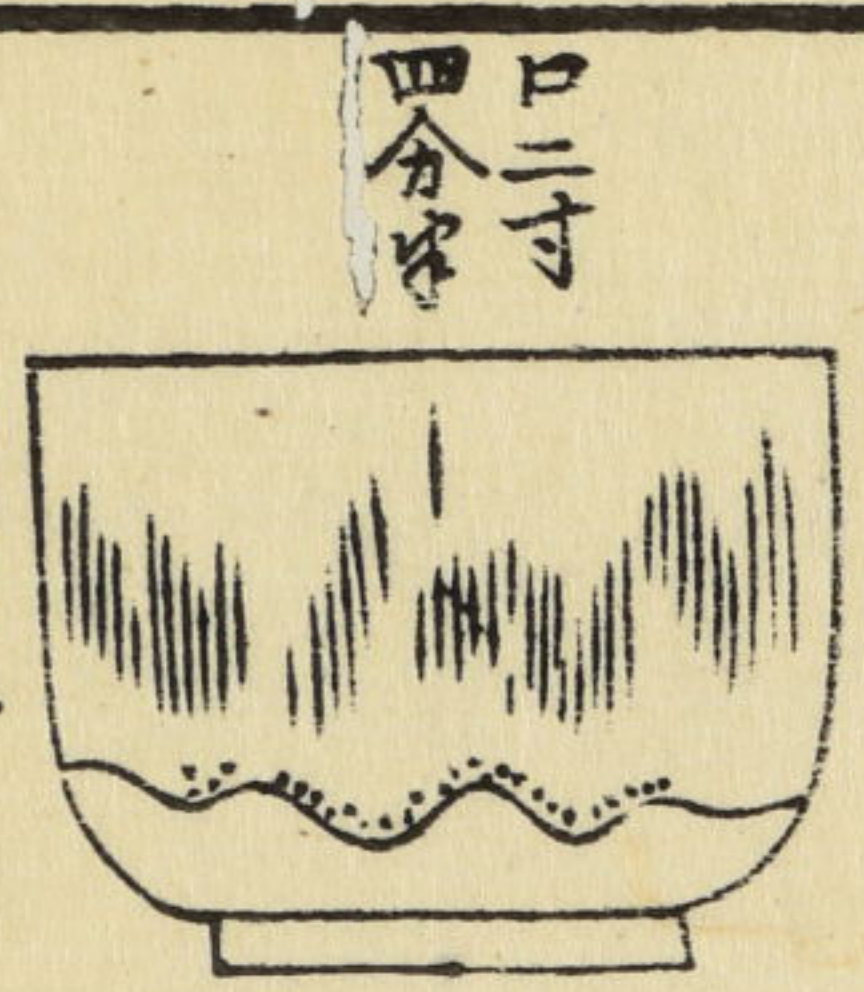
口七分  
横二寸一分  
深二寸一分  
土青メニ思  
朱焼ニ似  
廻リ六寸二分  
底八分半

一 博多文琳ハカタ 宗儀シムノリ 雨指アメササ 又マタ 三葉ミツバ



口一寸三分  
横二寸一分  
深二寸一分  
土心アリ口飾  
廻リ六寸六分  
底一寸  
糸切

一 飯戸ハンド 又飯瓶イヒビン 宗甫シムボ 雨指



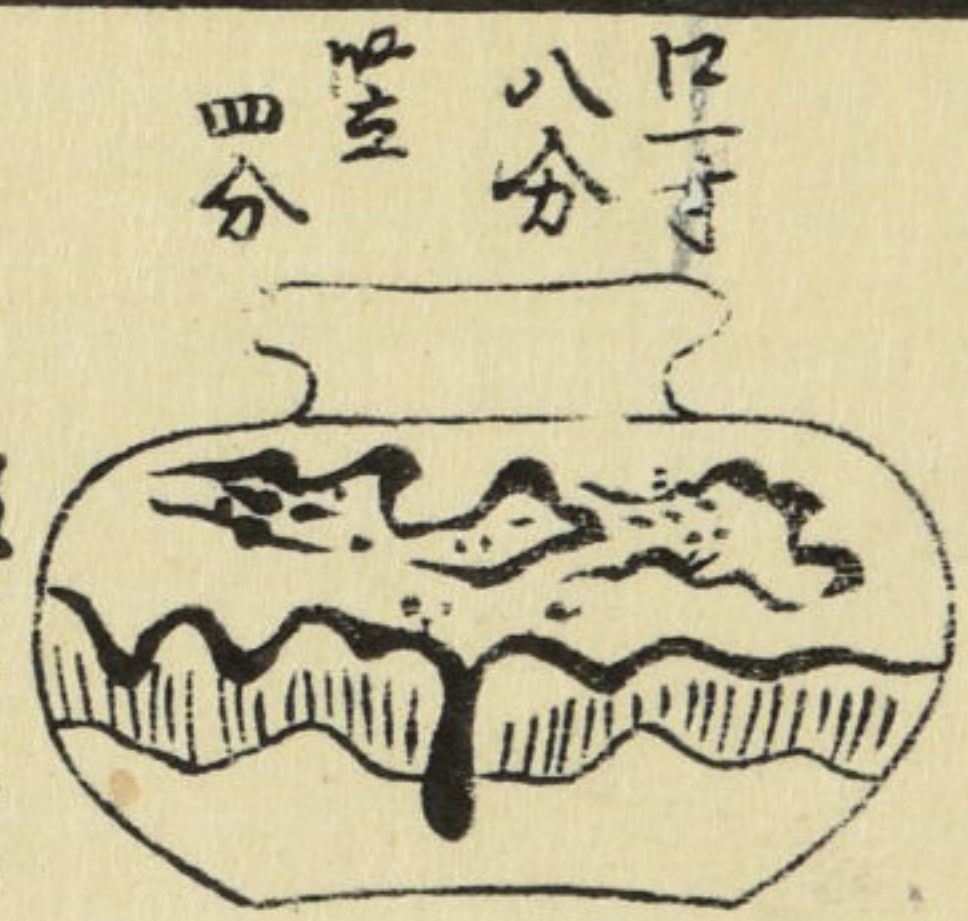
口二寸四分半  
横二寸二分  
深二寸四分半  
土 赤メニ葉極  
茶一色濃ニ指  
廻リ七寸七分半強  
底一寸二分半  
糸切

古物類考  
第九



古家符  
三十一

一万歳大海 伝長公御所持



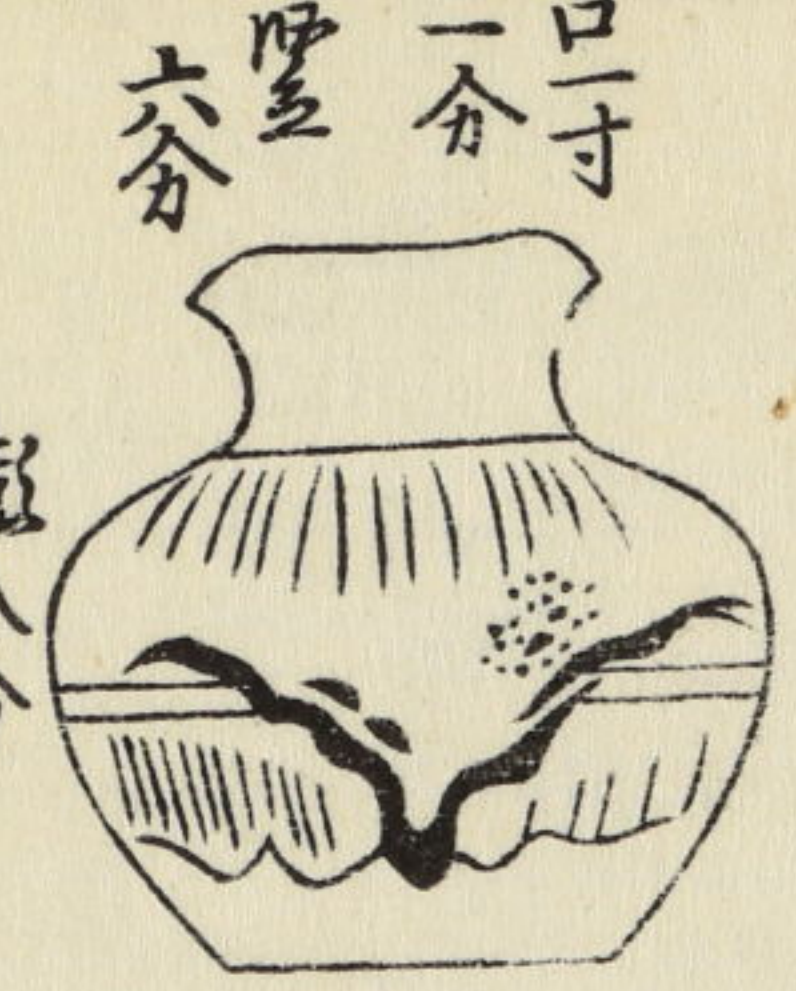
口径 二寸三分  
横 三寸三分  
上茶 濃揚  
下茶 薄揚  
去 黒三葉の托  
廻り 七寸三分  
底 一寸二分  
糸切

一 御蹄 道統御所持



口径 二寸三分  
横 二寸三分  
上茶 濃揚  
下茶 薄揚  
去 白青  
廻り 七寸一分  
底 一寸  
糸切

御蹄 見通御所持



口径 二寸三分  
横 二寸三分  
上茶 濃揚  
下茶 薄揚  
去 黒三葉の托  
廻り 六寸六分半  
底 一寸二分  
糸切

一 大掬 大坂 吳弁云 堺薩戸屋 宗金トアリ



口径 二寸三分  
横 二寸四分  
上茶 濃揚  
下茶 薄揚  
去 黒三葉の托  
廻り 七寸三分  
底 八分  
糸切

〇 汝家各器 全十一

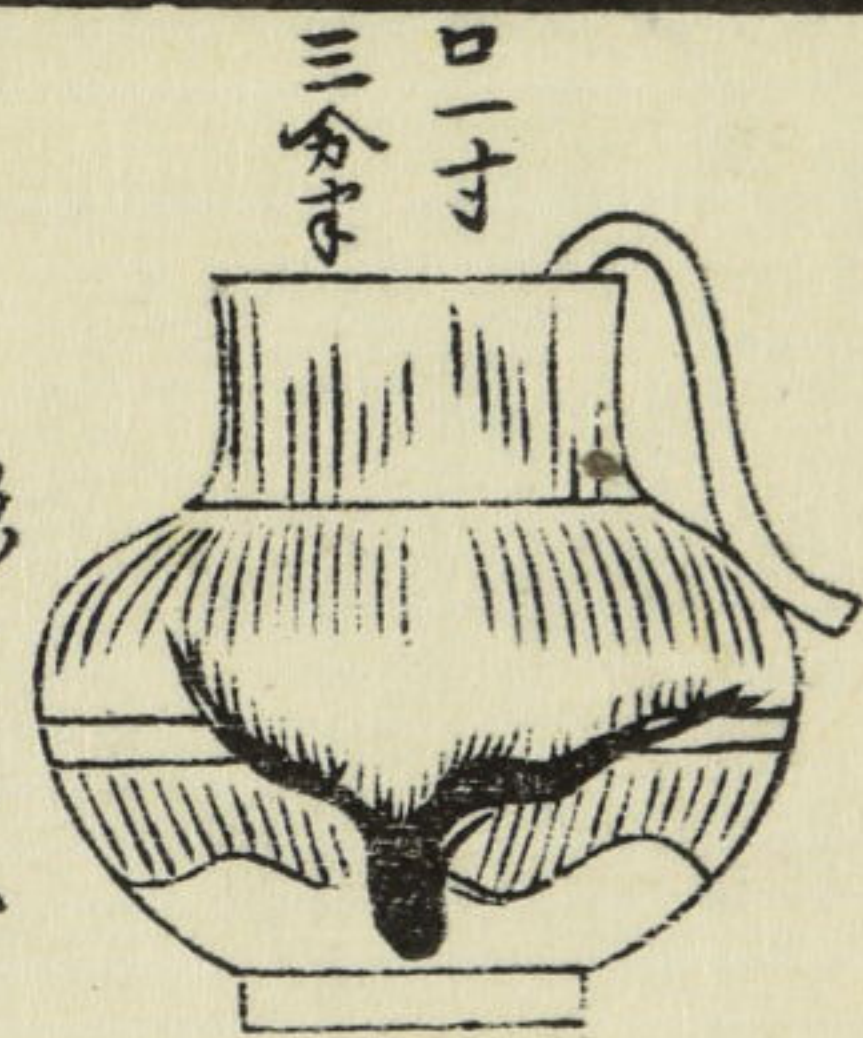






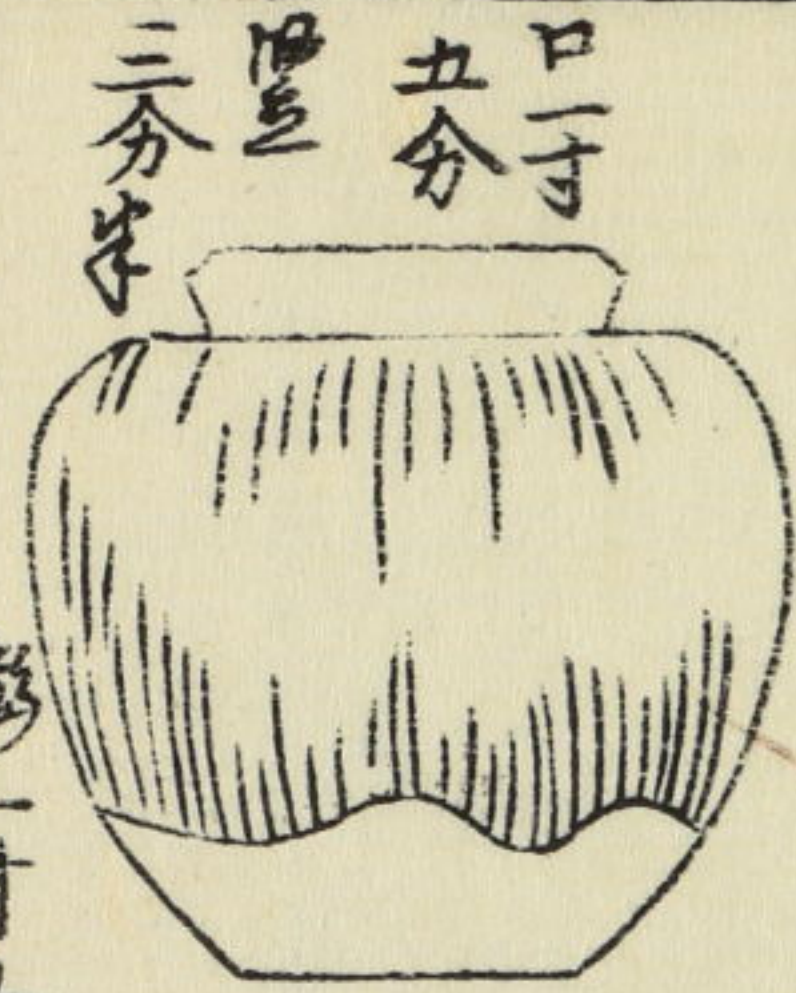
一物付

宋札



口一寸  
三分半  
横三寸一分  
横二寸五分半  
上茶 濃揚  
下茶 薄揚  
茶花 マカ  
去 青ク 五メ  
廻 八寸二分  
底 一寸六分半

一才邊肩衝



口一寸  
五分  
三分半  
横三寸  
横二寸八分半  
茶 銘文  
赤 濃揚  
去 青メ  
廻 八寸三分  
底 一寸六分

右曰指七品一各器以古出証

古今名物茶具秘記

茶入肩衝

徳手 新菊

口一寸

茶入の指

とあり凡本物焼物乃来由反

それらも好基美産和泉國陶器

村小能く物と登新と焼法へ大

いまごころ何茶入と云物也 梅尾

乃高直と人初く茶とりの物瓜

ひあめあふ 乃美佐旧茶伝承者

と勝不討小加敷田初茶といふ

物と茶入と焼出せり後田節を

と名勝名と世の口凡ふと去の毛也

いふと梅尾凡物練あゝ口と下

いふと梅尾凡物練あゝ口と下



あり焼くはふと口よりく茶  
 かしす相色わくは厚みあり  
 うりの物とて厚み平らなる相高  
 後産の何月取ゆく入産の  
 枝はれ焼極れ決まりとせぬお徳成  
 ちりりとも子版りあくは焼物  
 小又おふとどりり入子れ箱より  
 うりも由焼物れ産味りあり  
 焼物と版ふ茶色よく解ちも  
 融れりて脂やるるの小出茶  
 ともやれ唯徳院建暦年中れ  
 人ありて時代は百年お及びり  
 是のれ焼物什物らしてさるる  
 うしお平られ徳記おんより  
 △云漢美多但一徳為とさる茶又  
 ありりてかきとて細やるはり

口元手



△口より厚く焼るは厚みあり  
 後産り乃何り小茶かぬ物  
 ち版小口元手と云△下茶為持  
 ちあり又思ひ茶赤く茶もさる  
 方の焼る茶多くと茶多くと上  
 茶の濃く茶難くと一面に茶盛る  
 持茶小思あぐれの茶茶余自持  
 小これ茶也△茶入乃相の強馬の如  
 く大振りく水折あり茶入持  
 肩衝 子瓶なる茶入これ  
 茶のまじり合ありと茶入あり











とて茶入乃つくり形を長く石の  
 二かねをきくかんめん  
 △云云茶入をゆく石目より△口より  
 横より一より△各切かきあり

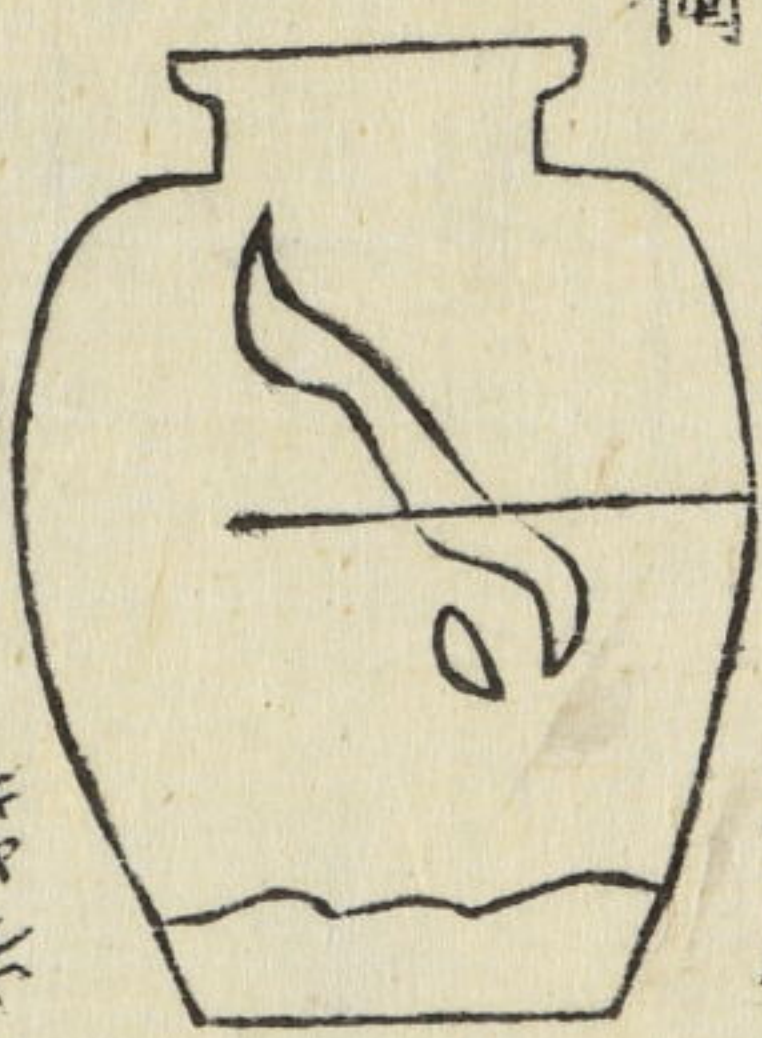
辰ノ市



△下茶扱多に中一息とて上茶ハ  
 口茶扱ひ一より一より酒入れやん  
 口茶扱ひ一より一より茶と茶をふん  
 口茶扱ひ一より一より酒入れやん  
 口茶扱ひ一より一より茶と茶をふん  
 口茶扱ひ一より一より酒入れやん  
 口茶扱ひ一より一より茶と茶をふん

四 肩衝

肩衝と云ふ肩の衝  
 る板あり形はまきと厚く乃  
 これを拾ひし肩衝



長 三寸五分  
 胴 七寸五分  
 口指渡 二寸四分  
 底 一寸六分

唐物

△口より狭き一花をきく△系切  
 まき一美目あり△海帯三ヶ一  
 あり△地茶扱ひ乃整ふ茶を  
 △上茶扱ひを拾ひてまき一  
 とての七△系扱ひ厚く美れを  
 まき一濃茶扱ひなり

△唐物此肩衝茶入を流  
 茶入所依く云云茶入唐物此  
 茶入所依く云云茶入唐物此  
 茶入所依く云云茶入唐物此

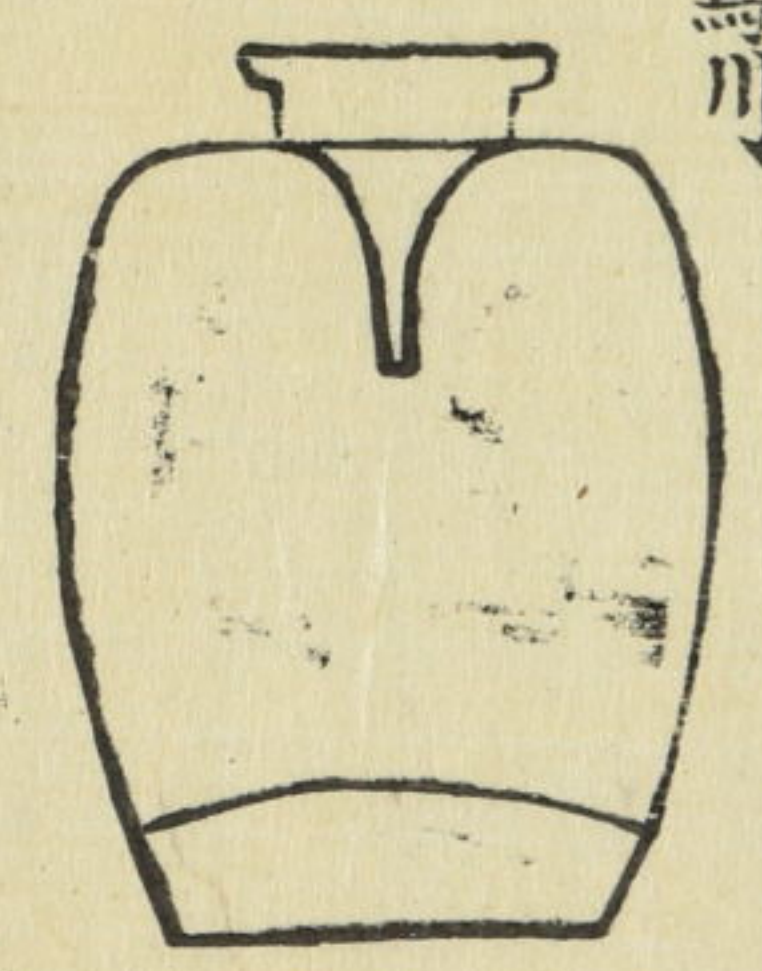






かりきしこしき後又伏見中へ目  
 ちんぼのまじりて汁ゆるく  
 ありしゆハ濃みあがれくも此月  
 月ありたるとして古所を引て飛鳥  
 川と名付秘蔵しゆふ酒井氏  
 これをあらうしゆあてきし

飛鳥川  
 町とのみちを引て飛鳥川に流れて五月月  
 ありたる



元禄と  
 九百九十年

△古為赤い子とく古新伝はるる  
 ありし時や和りありとあり但根  
 元れあまの川乃云えハ白たふと也  
 とまより△口より標し一層子

△糸切一際尋常なり或云糸  
 切あり但糸切小口傳あり

△地葉の濃掃葉小葉地一面小  
 △上葉の濃掃葉れどあり黒くより肩

と云まく物し是とくこ黒くは公テ  
 中子と掃しと賞あり△或  
 又地葉の濃掃葉上葉の葉葉

川とく一海りも是ハ去雲くで  
 掃葉乃を熱つとく細くあり

△子燈小全花山と同他あり掃  
 葉小黒葉と赤と黒と熱つと





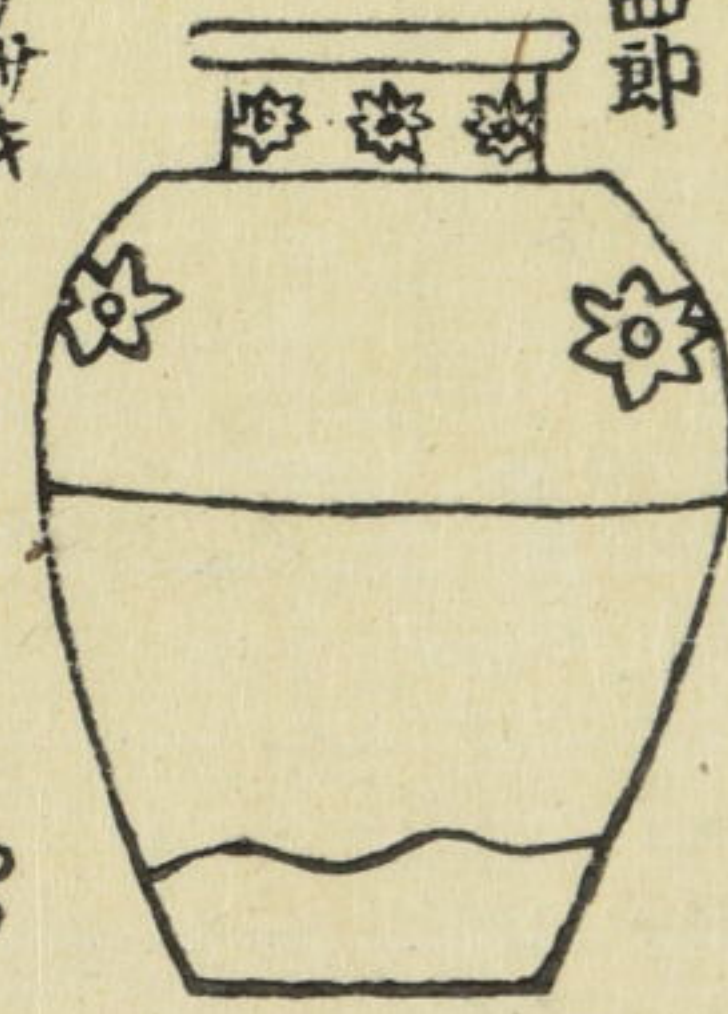






乃物成後すまむらぬ小瓶を置り  
 と云ふりへ又黄飯やうくく一五  
 わり若の地黄飯茶に熟くは黄  
 飯大のまうくくは黄飯やうの茶  
 は湯乃より入ふはまをれあり

花藤四郎

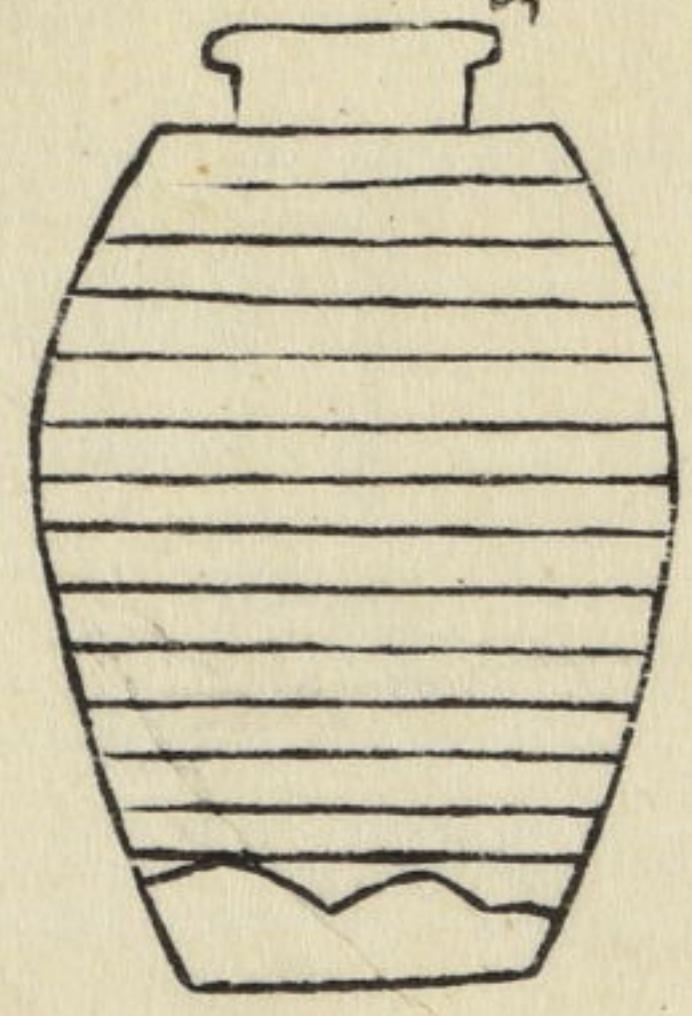


△云淡黄飯あり△口はさり撫五  
 △糸切細く茶を煮△地茶は湯を  
 上茶の思格乃茶小黄飯をま  
 けてひくを云乃くくかきあり

十  
 糸目者四郎 糸入乃相あり  
 く雅多り茶は乃く細格合

うーは湯乃くく茶入の胸糸目  
 多上くは他ありは茶入茶あり  
 自は茶を煮はるはれあり  
 云湯は黄飯△口はさり撫りあり  
 花を煮あり△丸糸切湯目あり  
 又常茶乃糸切もまれあり

糸目 藤四郎



△下茶柄を煮又湯入り茶を  
 煮色を煮上茶の思茶は乃く  
 茶を煮乃くくおひくくかき  
 茶あり△又或は地茶は湯を煮上  
 茶の思茶は乃くくおひくくかき  
 又黄茶は乃くくおひくくかき











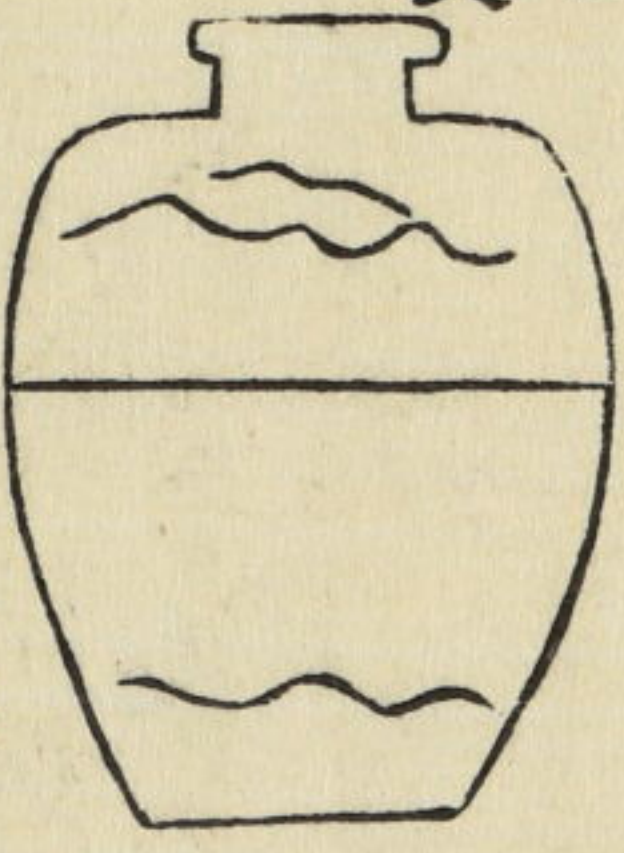
△手鑑小云紙紙其時代火口立  
て黄美流凡之あり又未同美  
之速振又取上之合意振也  
土白一とあり

朝日去度 春慶節法意云

茶と云一年凡此、必物日と云  
亦小入くは一色りと焼ひるあり  
と云或人乃云は流るる流中類  
目域小か下り茶れ其あひ小志  
乃云は物日乃云は乃云は火  
乃と云はれまことこれ茶の茶  
切志れ秘意ありと云り云茶  
於指合細之よく流子中く万中  
凡るる茶入たふひましくおれ  
物あり△去儀美又作一古記

故小為本く凡由も一物あり  
接五一花意へ△丸糸切常也

朝日  
春慶



元禄三年  
三百六十年  
と切

△下茶流揚小茶池一面小之也一  
際云之れ美立り之△上茶は美  
小流美飾茶遊小か、傍飛美あり  
但一飛美れ粒ましく形記と賞  
と云之卯小美紐を記物あり

△手鑑小云去云又去赤一産物  
乃柄小入して柄茶乃上小柄茶  
之乃美之系切も之流流  
又ハ美あり美か、りる物日云  
代ハ又百費又ハ合式指物



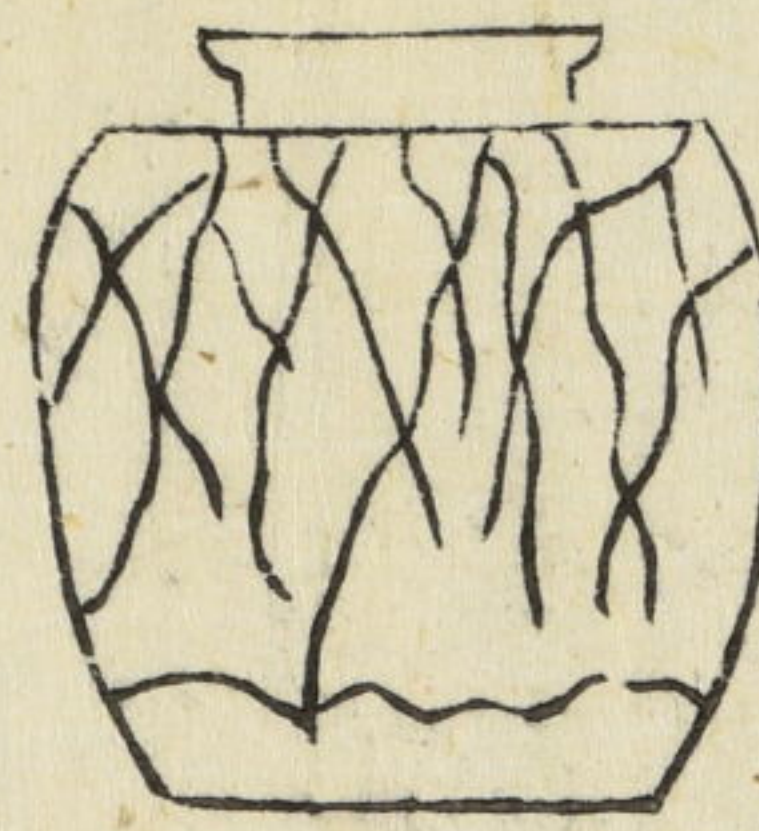
新日の教即他なり 花臺を以て  
 寛永と百三十年あり 或寸七  
 八分二寸と云ふて上と乃茶入  
 百貫或ハ貳百貫 △又云云  
 茶の丸籠茶乃形小似り坐  
 する下と申と云ふて 朋世に  
 と云ふ小あり代金を數或數

十七  
 雪下 喜慶 以振え小堀を  
 引云 喜村 氏 西務乃茶入あり  
 柳の枝小茶井條あり 所小これ  
 ばとて政一云 奇と云ふて 名付給  
 たりかづと云ふて 云ふに 柳小茶を  
 びとびとる 古あり 失念△茶  
 乃相の 後果乃とく 落子小生り  
 細とく 上茶あり 上とれ他

吾新乃茶入あり

△去る 遠前 多あり 又茶 去とあり  
 糸圓 ね 振小 藤 粒 ね 目あり

△口 生り あり △ 振 子 の 澤 為 ぐ  
 三三下



△下 茶 流 給 多 茶 此 終 了 地 地

△上 茶 の 終 了 へ 入 遠 く 流 れ 多

茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了

へ 入 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了  
 ひ 白 く 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了  
 へ 入 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了  
 併 流 れ 乃 茶 此 多 へ 終 了 茶 此 多 へ 終 了



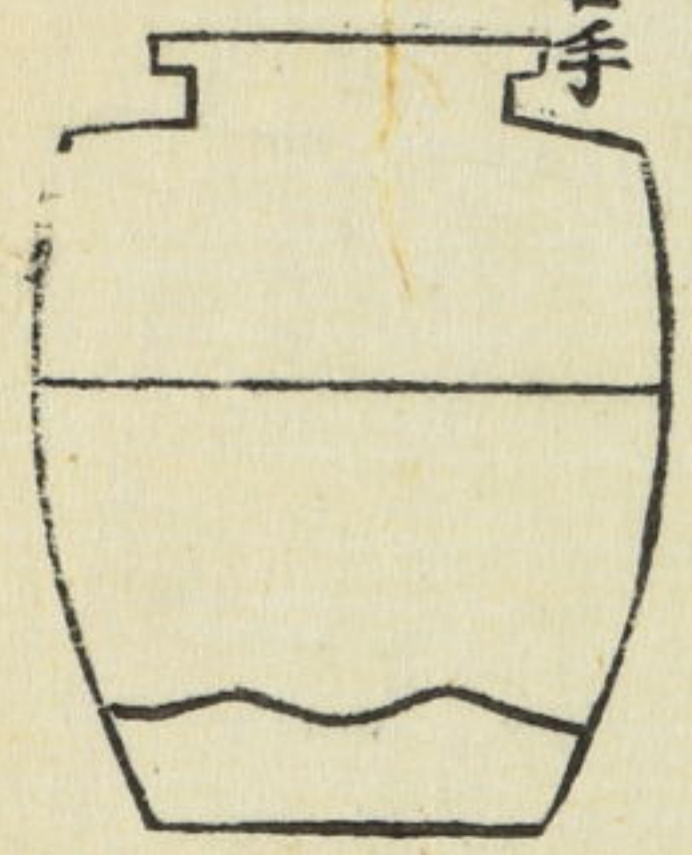




△糸切り一但一境三度下の有り  
 一の有り△あり一有り  
 △地系法系をわしとて一但一  
 上れ合系へ銀れ一の成るる  
 少く自然なれるの興系を濃  
 毛く一とて一とて一有り

九  
 却合系三度又 是の有り一  
 どの有り一むしき一

△土系三度 △はより接り一  
 あり一 △糸切系一とて一

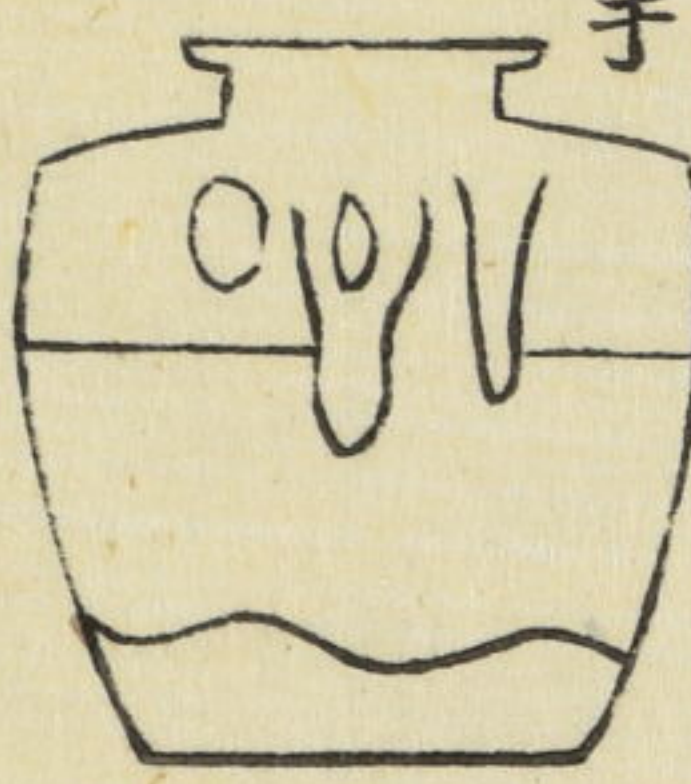


△下系落柄一に銀系地あり

△一系落柄一に銀系地あり  
 流れる有り又一に銀系地あり

△一系落柄一に銀系地あり  
 此は係勢尾張乃境中一  
 小係勢系と一銀系地あり

△去る白系乃境一に銀系地あり  
 接り有り一 △九糸切あり



△下系法一係一の有り一  
 系一係一係一係一係一係一  
 係一係一係一係一係一係一

口系一







△手鑑不云云 西門のり 氏際たり  
芙蓉乃 匠凡を代全式三枚板ハ

一玉川 出雲不見

玉柏 是ハ小垢政一ニ秘蔵カク

ひふた物之根中ハ奈高屋跡三集  
務津玉難波乃浦中ニ九世より

古前乃洞名と云名付ふふれニ  
難波は其の理々玉相居れてより久の事々

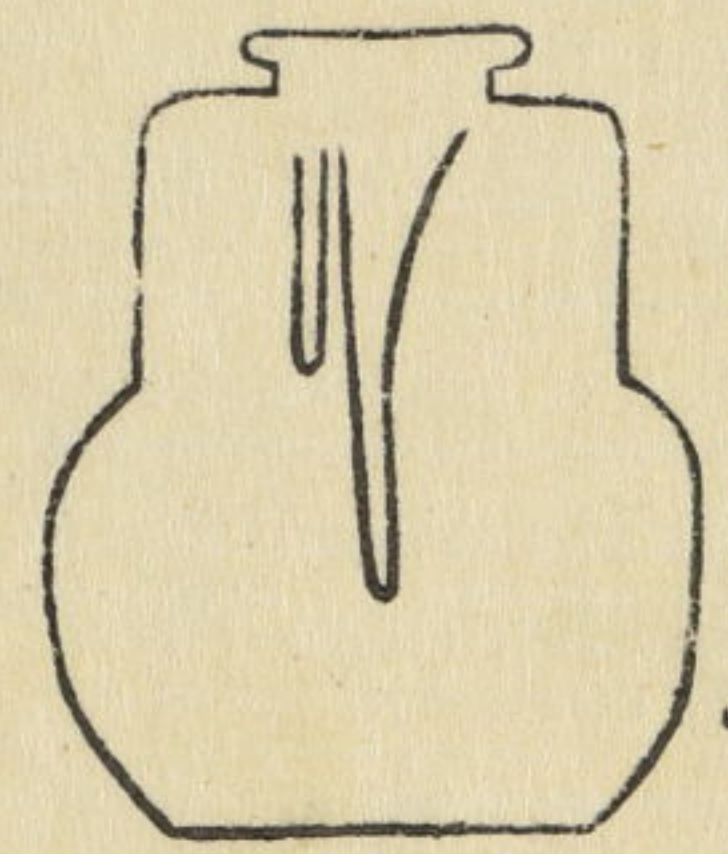
茶入乃相朋中ニ中ニ志ナリ上下  
かれあハ格合ナクこれと玉柏相併ハ

一海り乃手曲引ナリニ此茶入類一  
奈加れ物ニ

△去為不云云 緋文々々 △トビシ  
撫子一 係花意々 △糸切初々々

尋常中々一入凡のり

玉柏



元禄五年

二百三平年

△下茶ハ揚文乃類トシテ茶類中ニ

繁地ニトシテ茶ハ茶葉濃薄ニヨリ  
多ク一面示カクハ茶葉ハ濃薄ハ

だれ乃やう小ニ中々茶類常新ハ  
多クハ茶類常新ハ

△子鑑不云云 江戸ノ如ク似テハ物アリ  
去乃石ハ細ク研乃事ナリ故小玉柏

ト云リ 去茶一 二寸七八分ありて  
上ノ代全式牧威ハ三枚板也

九五 天目茶 建茶此天目茶なること







去来乃よりある焼物多しといふ  
月々

△手漉ふ云万右巻(ヤキ)と似せく  
焼(ヤキ)物多し(ヤキ)産(ヤキ)と似せく  
同(ヤキ)之(ヤキ)代(ヤキ)全(ヤキ)武(ヤキ)殿(ヤキ)或(ヤキ)ハ(ヤキ)拾(ヤキ)友(ヤキ)と(ヤキ)白(ヤキ)云(ヤキ)  
△又或云去来(ヤキ)妻(ヤキ)云(ヤキ)小(ヤキ)く(ヤキ)似(ヤキ)たり  
但(ヤキ)一(ヤキ)糸(ヤキ)切(ヤキ)かり(ヤキ)て(ヤキ)本(ヤキ)糸(ヤキ)切(ヤキ)たり  
何(ヤキ)も(ヤキ)名(ヤキ)人(ヤキ)あり(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)

一(ヤキ)万(ヤキ)右(ヤキ)巻(ヤキ)焼(ヤキ) 是(ヤキ)ハ(ヤキ)産(ヤキ)物(ヤキ)ハ(ヤキ)厚(ヤキ)地(ヤキ)  
と(ヤキ)云(ヤキ)たり(ヤキ)糸(ヤキ)柳(ヤキ)乃(ヤキ)三(ヤキ)条(ヤキ)下(ヤキ)  
町(ヤキ)焼(ヤキ)出す(ヤキ)万(ヤキ)右(ヤキ)巻(ヤキ)焼(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く  
亦(ヤキ)云(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)入(ヤキ)世(ヤキ)小(ヤキ)糸(ヤキ)前(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く  
と(ヤキ)云(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)乃(ヤキ)在(ヤキ)別(ヤキ)ち(ヤキ)何(ヤキ)手  
在(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)焼(ヤキ)物(ヤキ)小(ヤキ)あ(ヤキ)る(ヤキ)自(ヤキ)然(ヤキ)云(ヤキ)  
左(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)一(ヤキ)△去(ヤキ)来(ヤキ)

糸切細(ヤキ)之(ヤキ)も(ヤキ)云(ヤキ)り(ヤキ)切(ヤキ)る(ヤキ)べ(ヤキ)焼(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く  
時(ヤキ)七(ヤキ)十(ヤキ)條(ヤキ)半(ヤキ)を(ヤキ)り(ヤキ)小(ヤキ)及(ヤキ)ぶ(ヤキ)物(ヤキ)れ  
ハ(ヤキ)い(ヤキ)ま(ヤキ)ど(ヤキ)い(ヤキ)糸(ヤキ)柳(ヤキ)を(ヤキ)多(ヤキ)く(ヤキ)焼(ヤキ)つ(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く  
去(ヤキ)糸(ヤキ)切(ヤキ)も(ヤキ)お(ヤキ)毒(ヤキ)一(ヤキ)て(ヤキ)各(ヤキ)別(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)  
物(ヤキ)お(ヤキ)れ(ヤキ)を(ヤキ)自(ヤキ)然(ヤキ)小(ヤキ)出(ヤキ)す(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)云(ヤキ)く  
ち(ヤキ)が(ヤキ)あ(ヤキ)る(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)味(ヤキ)也(ヤキ)云(ヤキ)  
栗(ヤキ)田(ヤキ)焼(ヤキ)中(ヤキ)色(ヤキ)中(ヤキ)色(ヤキ)物(ヤキ)焼(ヤキ)り(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)云(ヤキ)く  
糸(ヤキ)巻(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)れ(ヤキ)を(ヤキ)自(ヤキ)然(ヤキ)小(ヤキ)出(ヤキ)す(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)云(ヤキ)く  
不(ヤキ)能(ヤキ)合(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)と(ヤキ)云(ヤキ)く(ヤキ)云(ヤキ)く

共  
法(ヤキ)堂(ヤキ)坊(ヤキ)主(ヤキ) 此(ヤキ)一(ヤキ)通(ヤキ)り(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)入(ヤキ)  
是(ヤキ)ハ(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)  
一(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)  
△手漉(ヤキ)小(ヤキ)云(ヤキ)坊(ヤキ)主(ヤキ)云(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)  
主(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)乃(ヤキ)糸(ヤキ)巻(ヤキ)物(ヤキ)多(ヤキ)し(ヤキ)

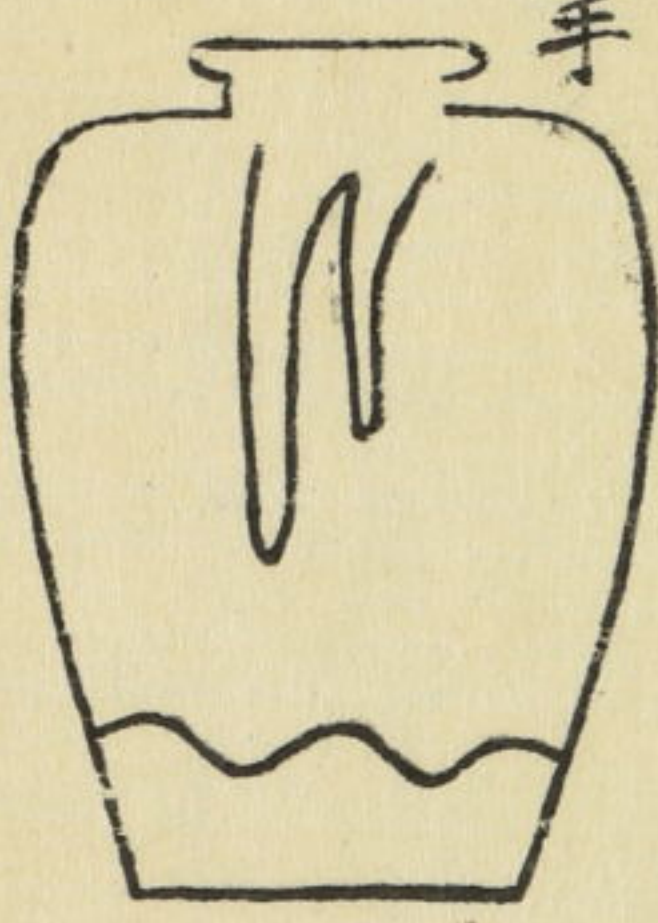
〇由美子  
三



もろ古水戸せ無そく焼くは  
ろくもろ代張又板の茶坊  
なり去の白去あり

坊主の ばり茶入 或出  
おぬ中へ 樽せりらゆきと  
あり又或は小樽せりあつ坊  
主頭乃やうあるやり他一  
樽中板とまらばも相全  
茶も小樽くまら小砂を便  
し系切よりかろば△口せり  
樽せりもあつ坊主あり

坊主手



△地茶茶入は茶坊主あり又為

茶入交りかろば△又茶坊主  
莫あざれ乃茶入あり

△或は茶坊主茶入あり  
し又茶坊主あり又茶坊主  
茶坊主あり茶坊主あり

茶坊主あり茶坊主あり  
茶坊主あり茶坊主あり

茶坊主あり茶坊主あり  
茶坊主あり茶坊主あり

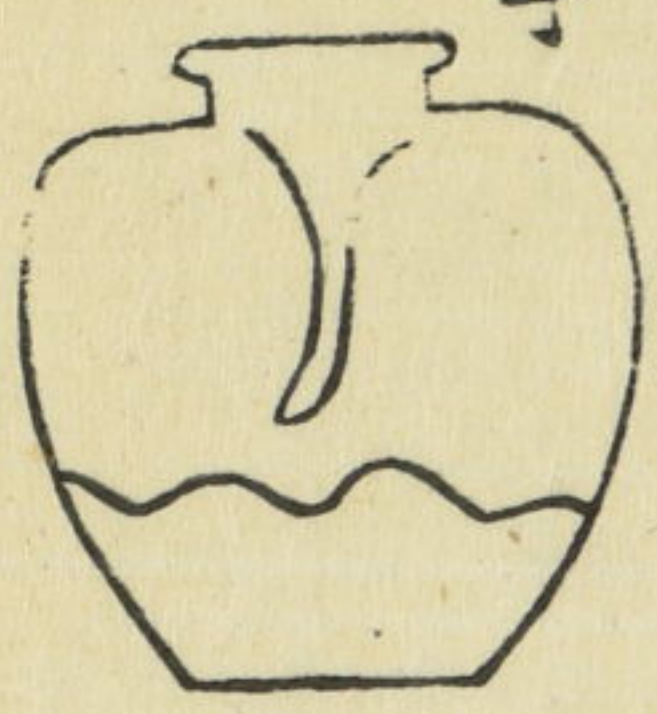
茶坊主あり茶坊主あり  
茶坊主あり茶坊主あり

茶坊主あり

茶坊主あり



あり茶入乃裏表ありて  
 振振乃天蓋れなりて  
 乃流あり今茶入の流井氏  
 とあり一うと△古白をい  
 まるま△口はより握り  
 り中く見よ△糸切常  
 糸あり厚くて是れあり

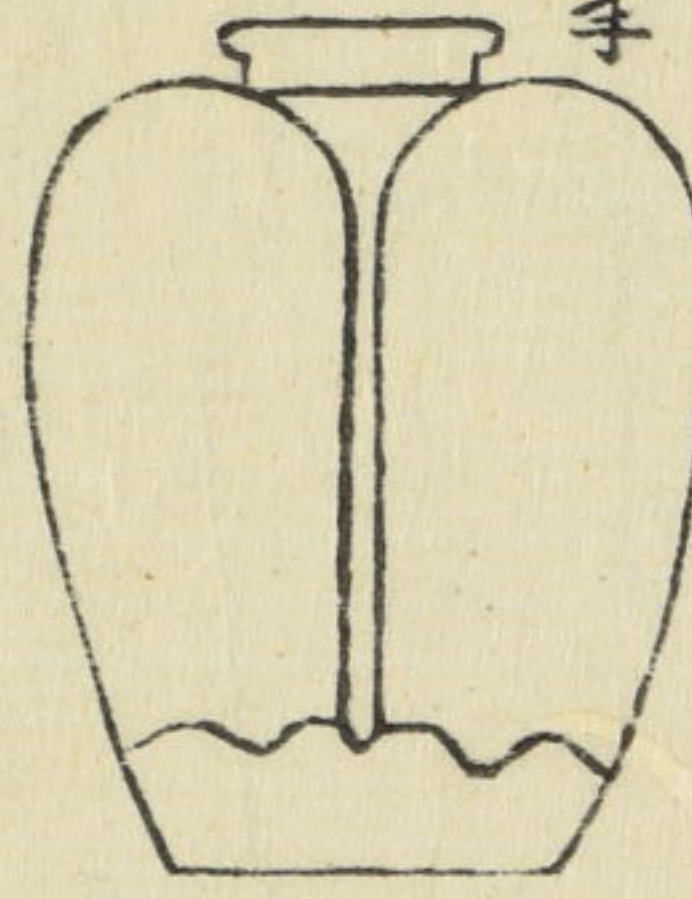


柳手

△下糸黄糸をい上糸を  
 雲乃をい糸入乃肩より  
 また流れをい糸入乃糸  
 糸入乃糸入乃糸入乃糸

世 聖回子 以板え糸糸聖回氏

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 られ糸糸糸糸糸糸糸糸  
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 △糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 あり糸糸糸糸糸糸糸糸  
 あり△糸糸糸糸糸糸糸  
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸



野田手

糸糸糸糸  
 百六十七に糸

△下糸糸糸糸糸糸糸糸  
 △上糸糸糸糸糸糸糸糸  
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 △糸糸糸糸糸糸糸糸糸



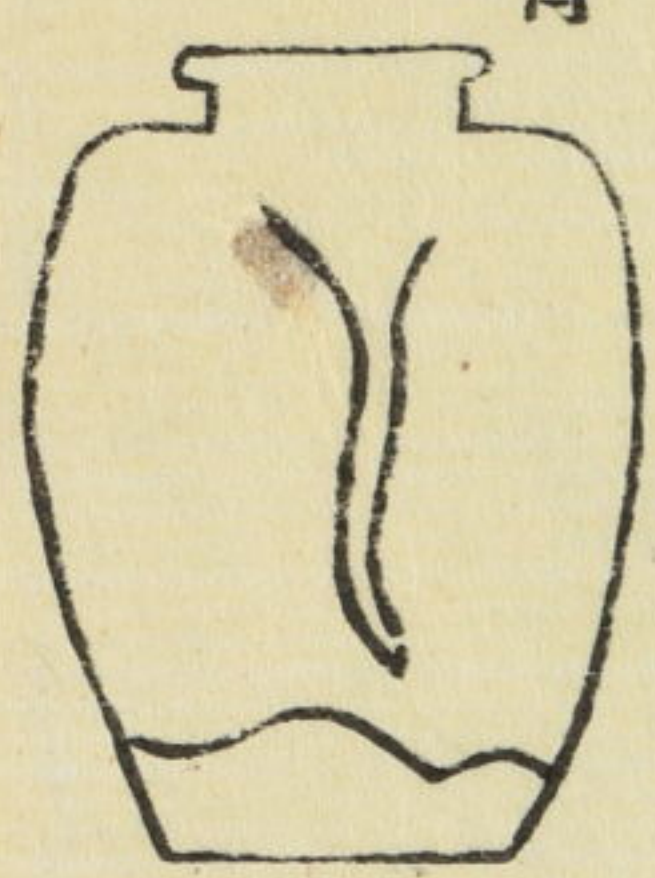




山乃よりは地よりなる物なり  
 △手懸ふん是も云々之類なり  
 時代百年ふんは飛来あり  
 去白一と云々

糸目子 批四 糸目子 糸目子 糸目子

△糸目子 糸目子 糸目子  
 △糸目子 糸目子 糸目子  
 △糸目子 糸目子 糸目子  
 △糸目子 糸目子 糸目子



糸目

△地糸の糸目子 糸目子  
 △糸目子 糸目子 糸目子  
 △糸目子 糸目子 糸目子  
 △糸目子 糸目子 糸目子

後之糸目子 批五 後之糸目子

百年糸目子 糸目子  
 糸目子 糸目子 糸目子  
 糸目子 糸目子 糸目子

文林 批六 文林 文林

林と云たり 糸目子











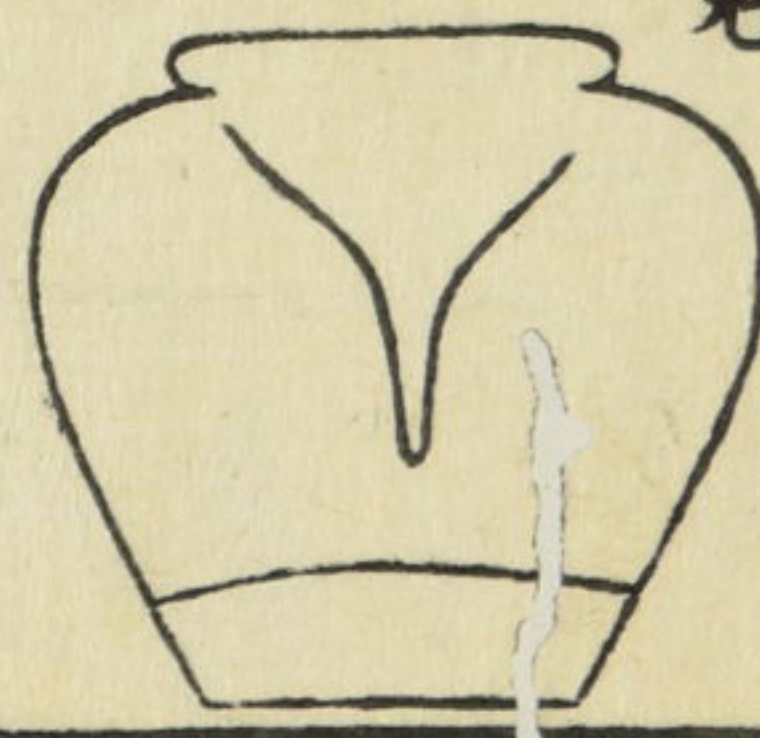
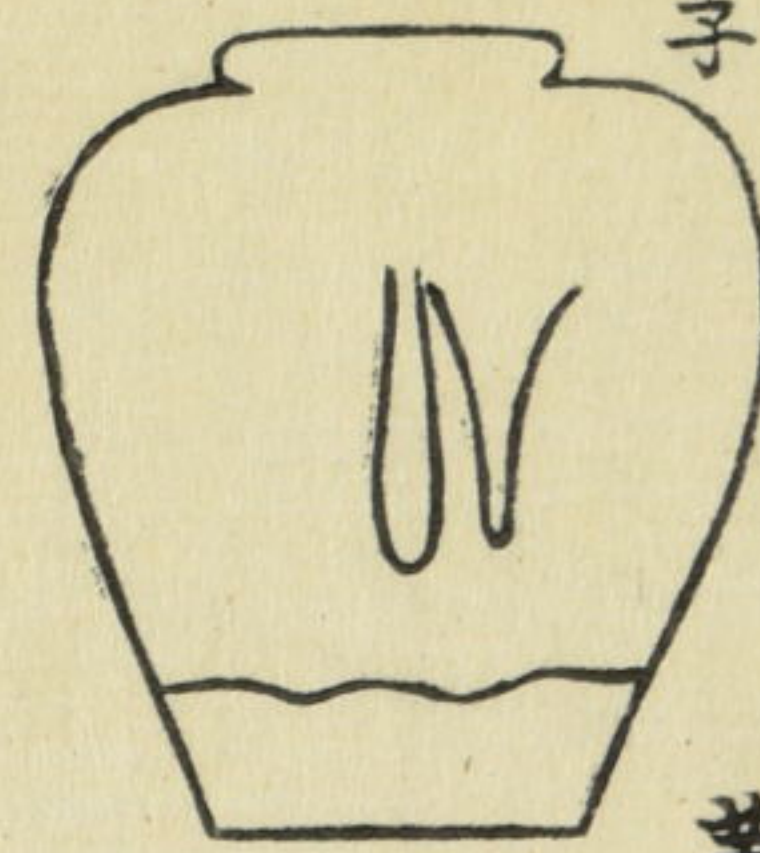
○和道之入  
○和道之入  
○和道之入

ひらひら 自然なれどもあり

△糸切

芋子

半魁



△下糸の徳持の糸地をよ上糸流  
 糸流をよきとせよと脚留りと云テ  
 一入の徳持の流れは徳持糸あり  
 △又或は流糸糸糸流糸糸糸糸  
 又黄徳糸乃糸糸乃のりもあり  
 糸糸のりも糸糸のりも糸糸のりも  
 △糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 去厚く紙志に糸ありせいのり  
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸と云とて糸糸糸糸糸糸糸

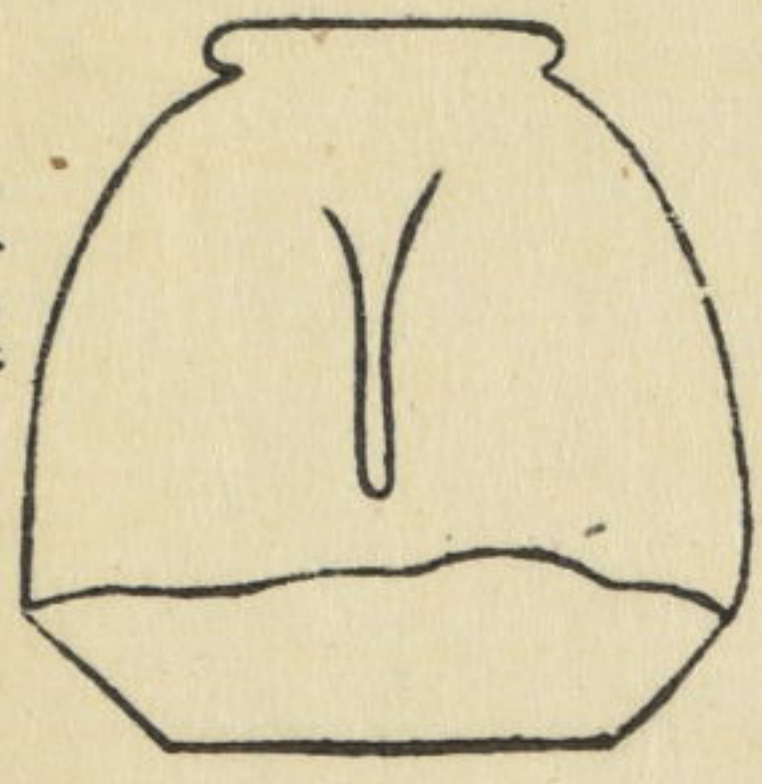
△或は糸糸糸糸糸糸糸糸糸

糸糸糸糸糸糸糸

一約持芋子 と云は此は持の糸

糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 △糸切  
 糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

鉤鐘



△下糸流糸糸糸糸糸糸糸糸糸  
 △糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸糸

上北













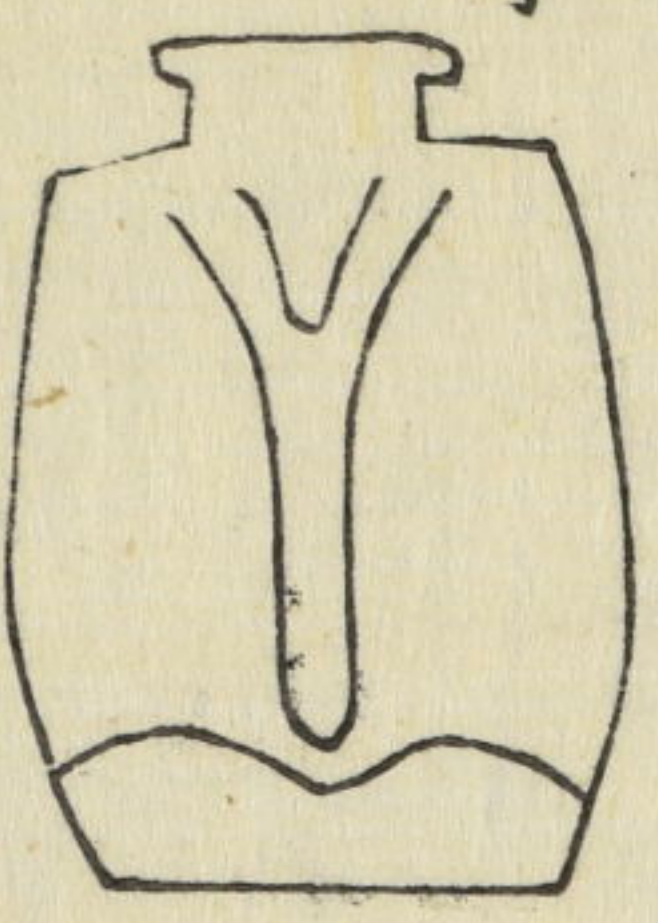






△口より穂を一つ取り常中より  
 △糸切の細さをもよく切らざり  
 △下糸標をくはき為さる糸入小  
 ちりくかつら物し△上糸の黒糸  
 烏スル糸 黄糸 烏糸 糸ひしく  
 とりくも又糸あがれ黄流し標  
 一より糸色もさ糸さの標に  
 かりとく大教百年古座小地  
 五故小糸乃糸流し入糸用也  
 かく見ると糸あつ物し  
 △糸標小地流し一古中に糸く  
 る故小糸もかりくあり  
 代金六十枚百枚標枚数百枚  
 一 産 産 産 古に糸入流し小  
 ちく細く物しわ糸さの糸  
 とりく穂のさ糸さの糸

甲八  
 標手  
 い名れ糸細とるは裁  
 人の云糸れらうぬとさのあり  
 △古流黄糸 △口より穂を一つ  
 常中 △糸切り



△下糸標乃整った糸也△上糸  
 ハ黄糸也(名々川) 入まど  
 ちりく後糸のさ糸さの糸終

甲九  
 生海筋子  
 奥州全花の標  
 乃生海筋の黄糸とく全糸の糸



入乃葉之... 入乃葉之... 入乃葉之...

△去葉乃葉... 去葉乃葉... 去葉乃葉...

△去葉乃葉... 去葉乃葉... 去葉乃葉...

生海草



△下葉ハ為赤... 下葉ハ為赤... 下葉ハ為赤...

△下葉ハ為赤... 下葉ハ為赤... 下葉ハ為赤...

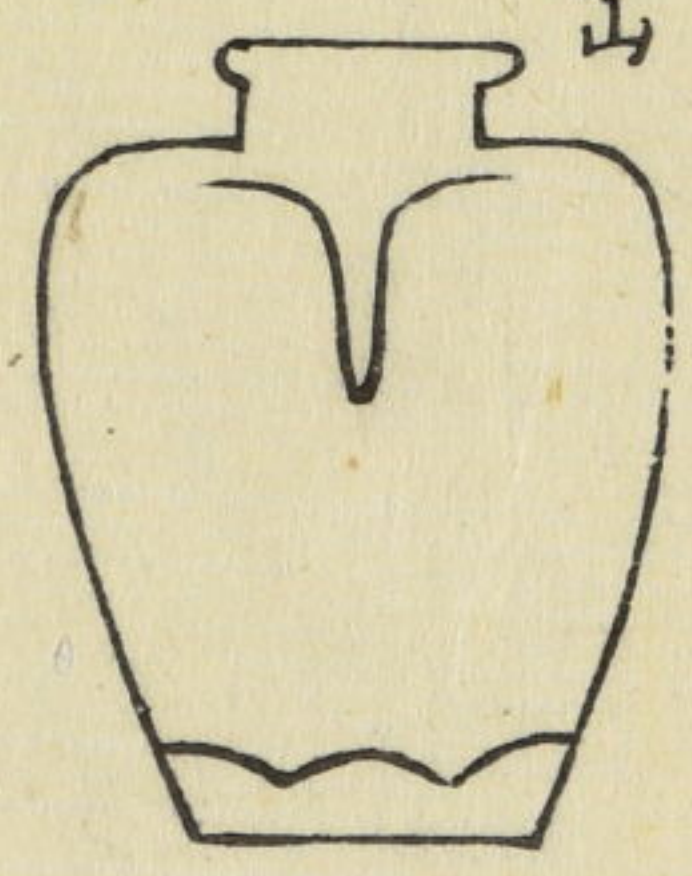
△下葉ハ為赤... 下葉ハ為赤... 下葉ハ為赤...

二百葉四百葉あり

金花山... 金花山... 金花山...

△去葉乃葉... 去葉乃葉... 去葉乃葉...

金花山



△系切乃葉あり

△下葉乃葉... 下葉乃葉... 下葉乃葉...

△上葉乃葉... 上葉乃葉... 上葉乃葉...

△上葉乃葉... 上葉乃葉... 上葉乃葉...



新海...  
...

小治くろ地あり

△<sup>五十一</sup> 子燈小徳統あり 二寸七八分

代金致致三枚三寸油虫

云金花山と目くく六の白

△或云地系流始系未目あり

口まり系乃くく鐵志に物

預長<sup>五十一</sup> 云系他系と目あり

系入乃流の系乃くく小預長

也乃の由く金花山乃預長と

頭長 是とり



△子燈小云寛永乃此と或百年餘  
首長ハ金花山乃の系

代金致致三枚二寸七八分

出来物也くも而貴なり

△或況小云此一系とくおれと云

あり系切の 花乃くく

赤云一交ありと云

△或ハ目ド子に系乃系小同交乃

流系乃くくくと生海流の

くく一是も系切形一六目あり

油虫<sup>五十二</sup> 系此交油

虫此交ゆくく故小名付く物

油虫



...



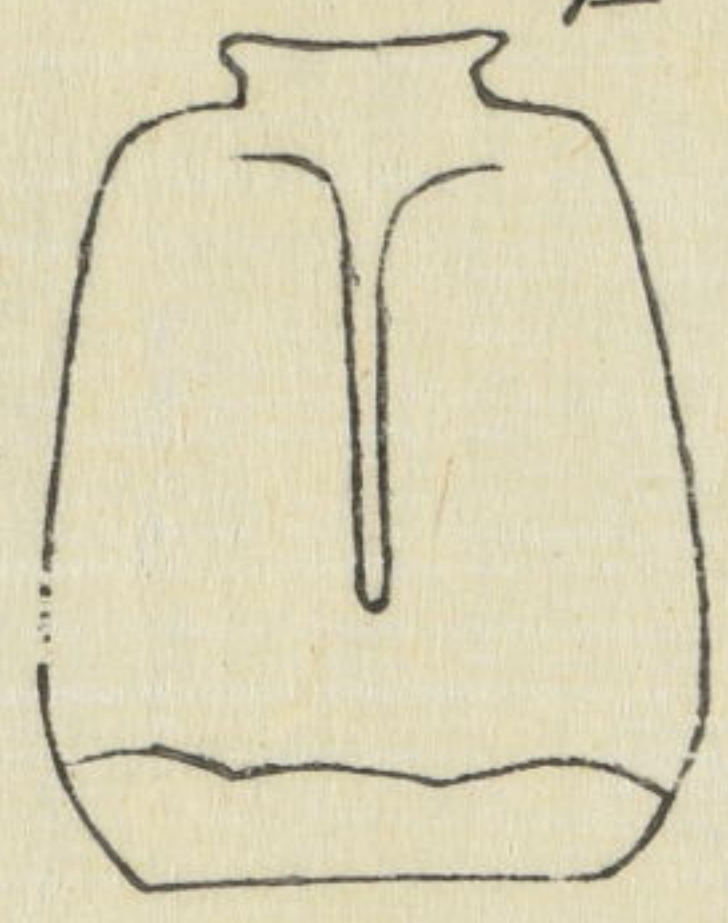
△去来右田の修作名の如く  
 全花山乃多端乃様物  
 新表及之去や  
 一清之申くわ

△<sup>中三</sup>喜江の  
 以根えの

△<sup>中三</sup>喜江の  
 務田氏より  
 らるゝ  
 花の  
 喜江の  
 乃如く  
 まり  
 され  
 △<sup>中三</sup>喜江の  
 又

△口生り  
 △系切常の  
 又  
 乃

青江



元禄  
 元二  
 及

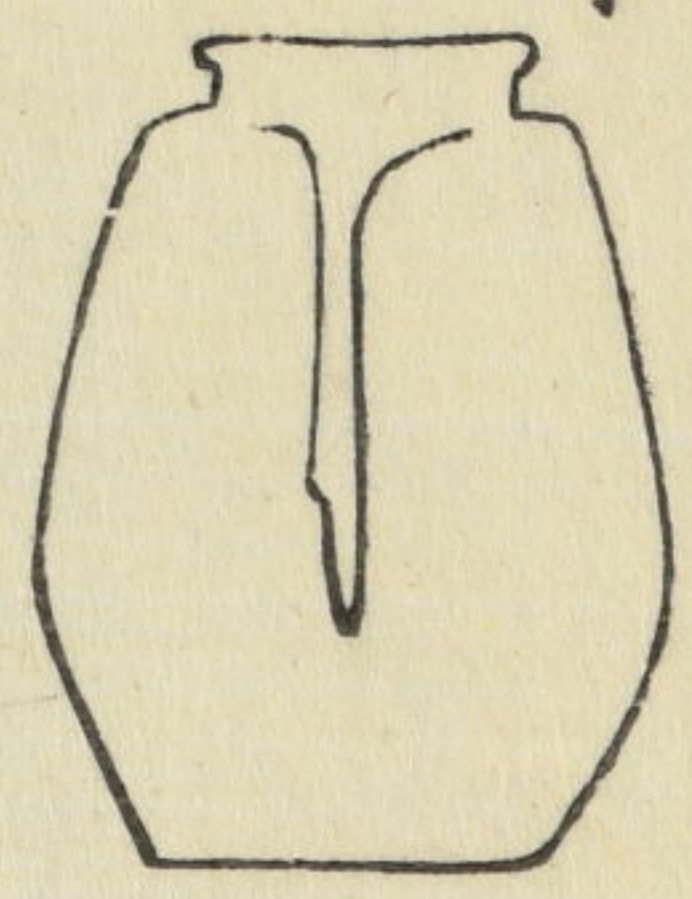
△下系  
 △又或の  
 小上  
 色  
 集  
 △又下系  
 △又下系



小上系コノケの黄糸ワウシ乃ナも有り  
 糸イト細コいりくさばくはかり物  
 △糸イト細コいりくさばくはかり物  
 乃ナ出デ糸イト抽ヒキ一ヒト海ウミ流ナれ或シはたせり  
 流ナれ多オホく或シ寸サツ七八分シチハチブ五分イ代ト百  
 費ヒ或シ百ヒ費ヒ三百サン費ヒ四百シヨウ費ヒ又マタ百  
 費ヒすそもどらんとす

幸サイ四シ  
 凡ソト手テ 此コノ名ナ乃ナ故コト中ナカの糸イト入イ乃  
 持テ主シ秘ヒ経キョウ淺センくはり凡ソトそ世  
 糸イト於オる凡ソト抽ヒキと自ジ傍ホウの糸イト  
 一ヒト凡ソト中ナカく細コれ縁ヅミ成ナり凡ソト  
 細コち凡ソトと名ナ付ツキく是コノとあり  
 糸イト細コいりくさばくはかり物  
 凡ソト手テ

△大オホ糸イト乃ナ細コいりくさばくはかり物  
 捻ヒキひり花ハナ糸イト乃ナ細コいりくさばくはかり物  
 凡ソト手テ



△地チ糸イト乃ナ細コいりくさばくはかり物  
 乃ナ流ナれかおろすは抽ヒキく糸イト  
 紐ヅミ又マタおれ抽ヒキあり  
 △子コ細コいりくさばくはかり物  
 細コ糸イト黄ワウ糸シ乃ナ細コいりくさばくはかり物  
 糸イト細コいりくさばくはかり物  
 油アブ糸イト乃ナ流ナれくは抽ヒキく糸イト  
 黄ワウ糸シ乃ナ流ナれくは抽ヒキく糸イト  
 乃ナり三百サン費ヒす

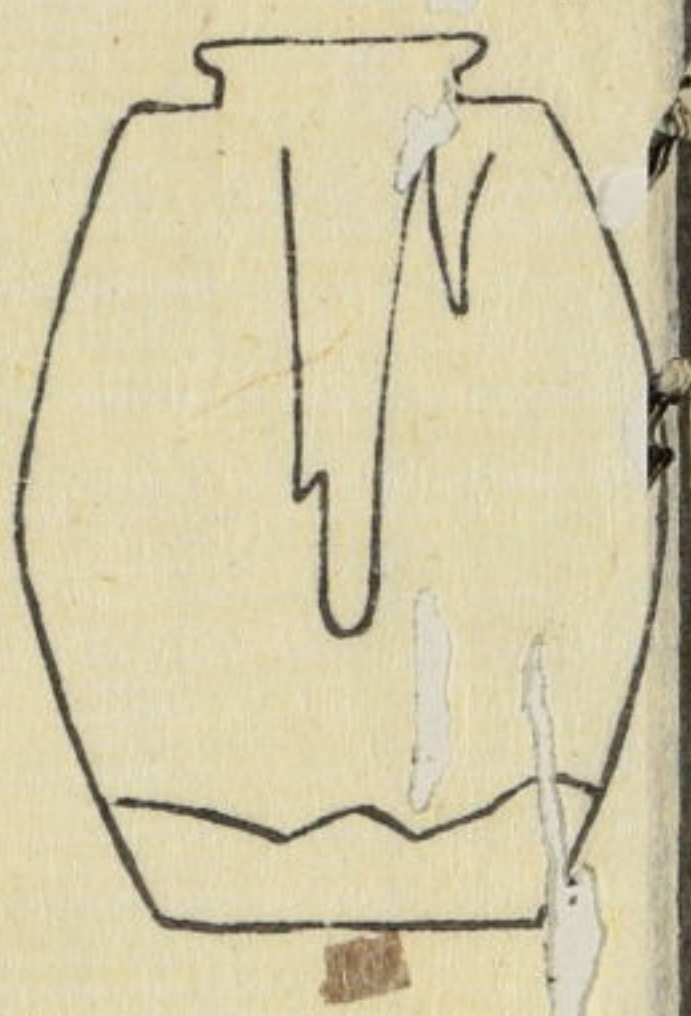
口クチ糸イト乃ナ流ナれくは抽ヒキく糸イト  
 二ニ七シチ



一吉長湯焼 利休時代の他名也  
 け焼物色古瀬戸の唐物と云ふ  
 しくけりるに白くか乃葉入熟皮  
 物なり又吉長湯焼とて一海り  
 と云ふ大可用物にあらずらん

濃紙茶 濃紙と云ふ茶葉也  
 乃之喻く偽ふ名也△板元の  
 葉入の濃井氏亦指とありは熟皮  
 世ふり紅物△去の濃赤と云  
 茶之小葉と云ふ之去の面石目  
 くあり△口造り撫子 能  
 ありくありて濃多に生り細  
 う又厚くもろたきり△系  
 切

溢紙



△下葉の濃赤と云ふかき茶と云  
 又葉茶乃板元の白り葉と云  
 葉と云ふと熟り葉小上りは葉  
 か厚く流れと云ふ又葉茶乃  
 葉茶入と有りしは厚く流れり  
 板元の葉と云ふ△又云下葉の  
 之乃海産葉小上り流れの  
 葉茶と云ふり世りたぶること  
 云葉入の外乃焼物なり  
 △手摺小云宛永治と八十年葉  
 入乃板板次金を板板為氣  
 板まてかりと云ふ代り



五七

一肉黄菜子 中古也内黄菜

右之介生海菜子とれ之物

一黄菜 一古中右 一版字

一利休 一玉拍号太三作と

五八

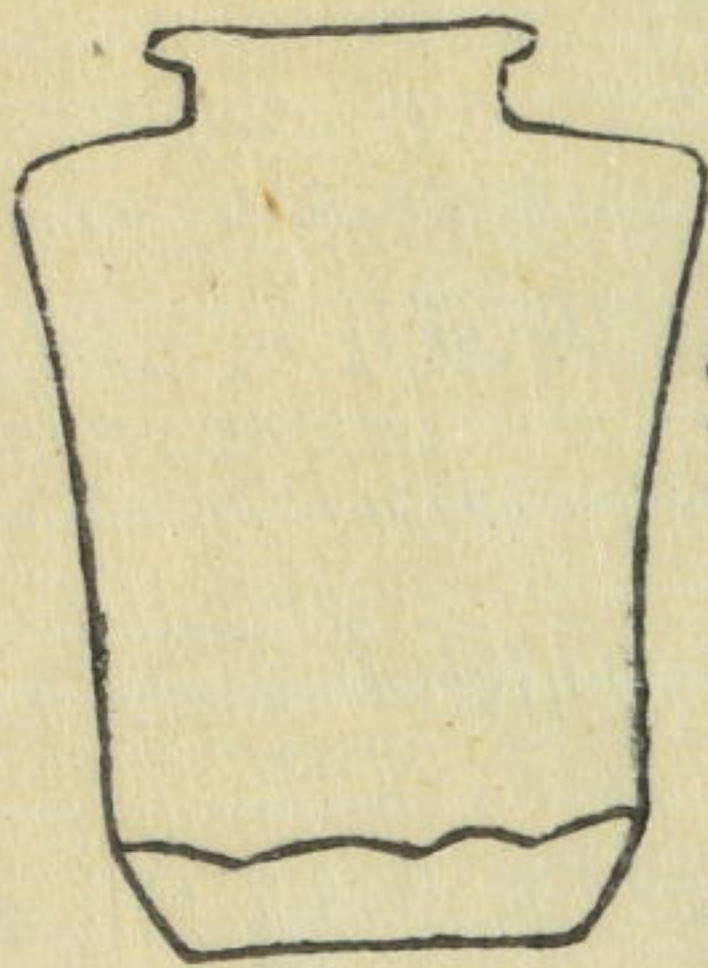
琉璃子

瓶神燭燭ふ似る故

依小云依之 古淡黄之△口生

提色一機也△京切尾と

蠟燭



△下菜房赤之又為菜之と

上菜の濃黒菜也やこれ也

△秘伝ふと古也 此菜柳と

之とあり黒菜也の

細やもけ程の蠟燭は一代あり

後何其色焼くか蠟燭子の菜

これと古のりくこれと

一妻度 一初日 一全為菜

一版字 けとる之者太小位す

五九

廣海子 けん其の菜入の松平

依列云お指なり小堀政一版か程其菜

入と今と見るふふ即と云ん其の

古奇と引右付給ふとあり

廣海子此の面も引とる今其の此

△菜入乃其の口也 延く肩成衛商強

少くは遠くは絵巻乃とく格合なり

け神と廣海子とより其乃と物

口葉

上



知りたられた口乃海はあり茶入器也  
 切志乃云はく此瓶ハ中も茶がぬえ  
 △古茶之供一古茶色乃茶多あり古あり  
 又能焼く堅た古乃中茶多あり古あり  
 △口造り搦色一入るる水細之あり  
 廣沢



△糸切ハ細之瓶茶入器也又糸切の三茶也  
 △下葉ハ洗積又小茶地を供一茶よ  
 小茶乃中茶多あり古あり古あり  
 波羅茶多あり古あり古あり古あり  
 上葉流丸茶一供洗茶地茶也  
 △又或ハ下葉流丸茶の茶多あり古あり古あり  
 古あり古あり古あり古あり古あり

△此類一源十部一作茶白茶也  
 △古茶色乃茶多あり古あり古あり古あり  
 全茶收積又茶地茶也

棧費 といふ乃茶地茶也  
 茶多あり古あり古あり古あり古あり

△古茶色乃茶多あり古あり古あり古あり  
 △口造り搦色一入るる水細之あり  
 茶多あり古あり古あり古あり古あり

棧費



茶多あり古あり古あり古あり古あり



△下葉流標之申く派つた物  
 △上葉の葉葉むしくと又葉流  
 思流れ只茶入あり葉葉の多  
 と流くも物あり

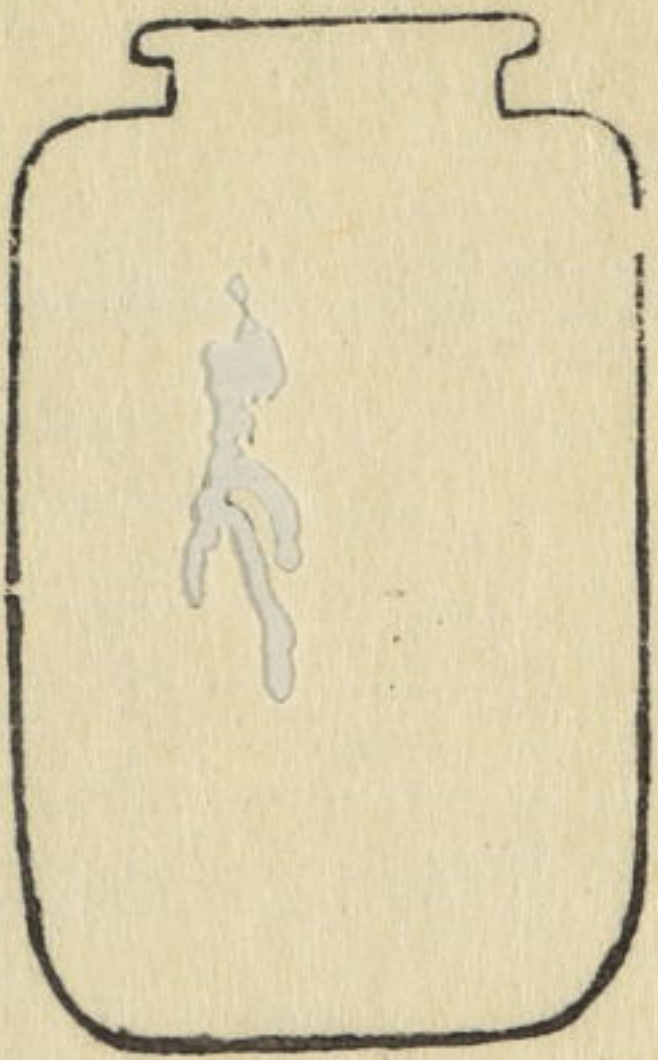
△手鑑小云葉永乃比と百年お扱  
 全き取扱支は廣目あり葉  
 葉葉をとり扱やり去り

△或流小云は流葉あり程流標又  
 の中扱小思葉乃流れ又ハ葉  
 葉乃流れもこれより生り扱  
 各一朋小扱葉葉あり肩先  
 全付あく細雨あり元標と  
 百九十年修とあり

碎  
 ヤウイテ  
 正意  
 のかり室河に葉の  
 時流りて

照科と葉と  
 葉入と焼かり利休時代乃他  
 あり△去流未文△に生り吉  
 △系切り  
 葉葉標格合の多  
 と流くも物あり  
 葉入も物あり

正意  
 九百年



△地葉思は茶目には地葉葉  
 とと出つる云葉切かす切  
 △手鑑小云葉永乃比と百年又  
 云元標と百年修と多  
 時代お遠より程あり  
 細く流れあり

和漢茶入  
 上四十二



拾遺大新茶入の瓶式三枚

新茶入

是の茶三葉通

戸物町産物成ふくまうあり

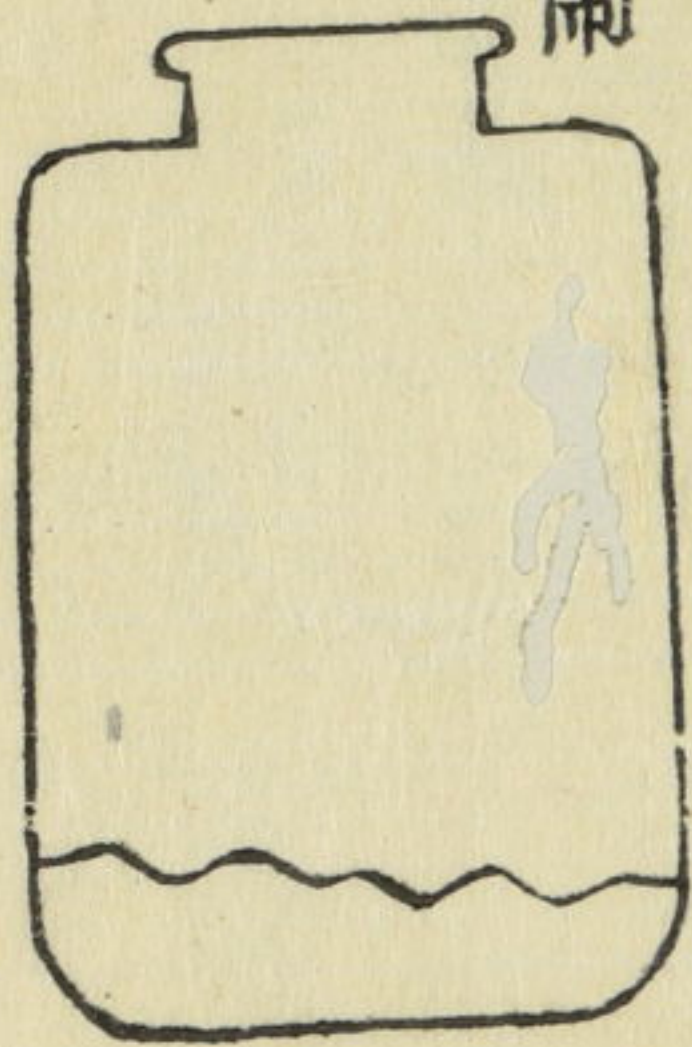
瀬戸へふり茶入と焼を年乃

名人あり今百年餘に及びり

へ云為赤又又深黄もあり

新茶備

九百年余



△口生より糸田万のり

△下葉落橋文小葉流丸乃茶

入かありすま△又地葉流紙茶

敷く上葉小葉茶あり

茶入の常々茶入の出来

物此茶入の世に

△手鑑ふ云寛永此比と云十年

又云元禄と百年餘と云此

代あり細く紙式取と云云

た今小瓶と云る茶と代付

卒三

茶底

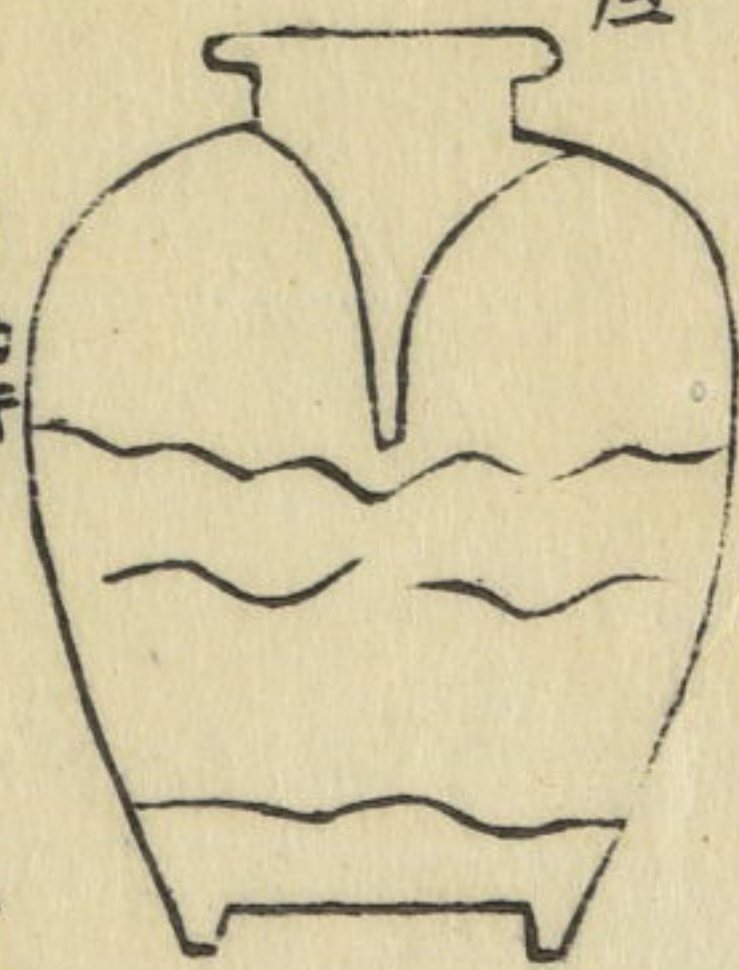
底は桶乃てくみ

上へ物物し併一桶底在云

△去為茶多小瓶目此やうにあり

△口生より流丸花茶あり

茶底



△下葉流橋文△上葉流丸茶

流丸の流丸茶あり△腰茶







